



← 総会風景

S 5 3. 5 月 1 3 日 (土) →

凌泳会全国大会にて

向って左から

小	白	山
山	山	田
会	源	部
長	三	長
	郎	



←
S 5 3. 5 月 1 3 日 (土)
凌泳会全国大会にて

向って左から

北	平	小
村	岡	西

S 5 3. 5. 1 4 (日) →
姫路・木場ヨットハーバー

向って左から

小	萩	山	野	山
山	原	田	田	口
会		部		
長		長		



S 5 3. 7 月 3 ~ 7 日

→

合 宿 風 景



←

S 5 3. 8 月 1 1. 1 2. 1 3.

全 国 国 公 立 戦 広 島 大 学 に て

S 5 3. 8 月 1 1. 1 2. 1 3. →

全 国 国 公 立 戦 . 広 島 大 学 に て



←

S 5 4. 1 月 1 4 日 (日)

初 泳 ぎ に て

左 から

木村 (多)
橋本 (功)
後藤
平石
平野
松山 (佐)
酒井
E24

↑
石井

目次

(表紙題字 藤井正太郎先生)

「水泳部の歴史」	会長 小山賢之助	2	関西国公立体験記	3回生 山本 隆	44
日本中等東西対抗の事	会長 小山賢之助	9	関西インカレ観戦記	2回生 寺尾 紀子	46
第一回凌泳会全国大会記	昭27 石井 義章	11	全国国公立観戦記	〃 富岡 洋三	46
生 造 り	昭36 野田 浩志	13	近国体自戦記	〃 富岡 洋三	48
初泳ぎ雑感	昭30 T橋本 力	15	新入部員感想ノートより		51
凌雪会海に集合	昭34 E北村 敏	16	昭和五十三年度戦績		54
会誌「凌泳」について	昭27 石井 義章	18	現役部員ベスト記録一覽		65
会員からの御便り			歴代十傑表		67
総会案内状返信より		21	昭和五十三年度凌泳会総会報告	昭37 T萩原 武	72
月見の宴案内状返信より		29	昭和五十三年度決算報告		73
昭和五十三年度凌泳会費寄付金離出者御芳名		38	昭和五十三年度予算案		74
現役部員寄稿			昭和五十三年度行事		75
私のクラブ感	主 将 杉山 和弘	40	凌泳会会則		76
泉春季水球大会観戦記	2回生 富岡 洋三	41	凌泳会役員名簿		79
関西ボロリーグ観戦記	〃 後藤 芳光	42	凌泳会会員名簿		80
合 宿 記		42	「商神」「応援歌」「水泳部部歌」楽譜、歌詩		102
兵庫インカレ観戦記	2回生 辻 陽子	43	編集後記		

「水泳部の歴史」

会長 小山 賢之助

〔昭和4年〕

神戸高商が神戸商業大学に昇格した年である。高商24回生であった草野嘉一（昭7）と私は本科二年から大学第一期生として学部に進んだ。旧高商は昭和3年入学の高商26回生を以って入学を打ち切り、この年から大学の新入生を迎えた。この中に山田常雄（昭7）がいた。彼は昭和3年に長崎高商を出て、一年大阪高商に籍を置いた後神戸に来たのである。京都二商の出身で、白山源三郎（大10）の後輩になる。従来水泳部は、神戸、大阪の人が多く、京都の武徳会系の人が白山の後絶えていたのであるが、山田の入部によって、京都とか長崎の水泳界の情報がある様になって好都合であった。彼はクロールも出来たが、どちらかというと平泳の選手であったが、当時の神戸は「関西のプレスト王国」で、鍵本芳次、熊野利夫（以上高商25回、学2、昭8）土肥駒次郎、市山新之丞（26回昭7）と私が居り、しかもその他種目に流用の利くのは熊野一人ということ、フリー特に短距離をやって貰うこととなった。

丁度この年は阪神高商戦第10回に当たるといので何とかして勝たねばならないと思っていた。先づ手始めに和歌山高商と相対した。この当時の和歌山の水泳部長が古林喜楽（大14）であった。前にも

書いた様に神戸は昭和3年には対校戦に連戦連敗。勝ったのは和歌山だけということであったが、之に56対59で惜敗した。その原因は和歌山にフリーに平野、背泳に葛井という西部中等でも好成绩を収めた選手が入部したのであった。詳しいことを知らない先輩の中には和歌山に敗ける様では先が思いやられると心配してくれたものである。然し私はまんざら捨てたものではないと、ひそかに期するところがあった。というのは私は前年はひどいスランプで200平でどうしても3分20秒を切れなかったのであるが、この試合で3分4秒6という私としては驚異的とも思われる記録が出たのである。前年の私は見るからにヂヂ臭さく、「オヂン」と渾名されていたが之で「オヂンが若返った」と言われたものである。

歸って大阪方の布陣を見ると、茨木中学から金森文太郎が入学し、根岸、三村、黒山は依然元気である上に長距離に小寺実が入部した。さて競技の方は、第10回というので藤井正太郎は勿論、木下東作、杉本伝、今田四郎、深山果等々、インターカレッジにも優る名士連が役員として臨場され、敵かなセレモニーのあと、200リレーから競技が開始された。予想に違わず大阪断然強く始めから勝敗は明かである。アンカーの三村が、ゴール前10米に差しかかった時神戸は3、4米水をあけられていた。ところが最後の6米位のところで三村はコースを誤り、コースロープを滑って隣のコースにタッチした。神戸は之よりおくれたが、正規にゴールインした。豪華絢爛の役員陣は大阪を失格せしめ、神戸の勝を宣した。

この判定が兩陣營に及ぼした影響は、得点の逆転に止まらなかつた。大阪の士気は減退し神戸のそれは高揚した。100は大阪の完勝に終わったが、神戸は200平泳で之を返えし、200は大阪が1、2位を取ったが、神戸は100背泳で草野、太田清（高商26回昭7）が、大阪の黒山を抑えて之を消した。黒山はこの種目に過去3連勝していたのである。800は香山孝一（高商25回昭6）が1位、山田が3位で、結局61対54で、神戸は敗ける試合を物にした。

三商大戦

大正14年から行ってきた対東京商大戦は阪神兩高商の大学昇格を期として、三商大戦に切り替えられた。阪神対校と、三商大では二番煎じになるのではないかとの意見もあったが、各校一種目2名出場の三商大と、3名出場の対校戦とは順位が逆転することもあり得るということで、対校戦も存続した上で三商大を行うこととなった。その後の実績を見るとこの逆転が屢々起っているので、それなりの意義が有るといふべきであろう。

この年東京は依然強く、神戸で一位を取ったのは、800の香山孝一（昭6）平泳の小山（学昭7）の二名、二位は背泳太田清（昭7）の一人、3位は、平泳鎌本芳次（学昭8）、背泳草野嘉一（学昭7）の二人で、両リレーは3位となった。この試合は大阪の築港プールで行われたが、東京に対するスタンドからの若い女性の応援が阪神両校への応援よりも多かったのはショックであった。

関西インターカレッジ

神戸が個人種目で得点の可能性のあるのは平泳のみであった。強敵は岡島武男（同大）であった。彼は前年関西インターカレッジで優勝し、4年8月東京玉川プールで開かれた日本選手権大会において2003位400優勝の実績によって、鶴田義行（アムステルダム、オリムピック優勝）について翌年の極東大会での代表権を獲得していた。他の種目は関学が断然強く、平泳で神戸の鍵本、小山の2人が岡島と如何に戦うかが興味を中心であった。レースは岡島4コース小山5コースでスタートから両者猛烈にせり合い、小山がやっとタッチの差で岡島を抑えたが、170か180米のところ両者が疲労しているところを、8コースに居た鍵本がスルスルと両者を抜いて優勝をさらってしまつた。泳いでいる者は別として、見ている人には面白い試合であつたと思う。何れにしても当時日本のナムバターの岡島に二人が勝つたのであるから、応援に来てくれた先輩の方々には喜んでもらつた。神戸はこの11点とリレーの10点で、21点、四位を確保した。

大阪高商水泳部に有名選手が入学した事について、当時の校長は武田千代三郎といい、彼は、東京の岸清一を中心とする日本体育協会に対し関西体協を作つて、事毎に東京に反旗を翻えした有名な人で体育には理解を示し、水泳のみならずテニス等にも有名選手を入れた。大学になって学長が変わり、市大の学風が左傾してからは、余り有名選手は、はいらなくなつた。

〔昭和5年〕

東京で極東大会が開かれた年である。代表選手の大部分は前年度の実績によって決定していたが、二、三の選手を追加する意味の予選会が5月11日に開かれた。当時フイリッピンは平泳に強く、之に備えて平泳はこの会によって3着位までは代表選手になれるといふので、前年岡島を破った、鍵本、小山に出場させることとなった。然し勝敗は戦わずして明かであった、というのは当時関西には温水プールがなく、関東には小さいながらも神田YMCAに温水プールがあり、東京の各大学及び之にスカウトされた中学校の一流の泳手はこの恩恵に浴して居たのである。結果は小山は辛ろじて決勝に残ったが、鍵本は予選で落ちた。そしてこの時の三着までが代表選手に追加された。本大会ではアムステルダムは4着迄得点を計算しメダルを与えたのである。イルデフオンゾという人は選手生命の長い人で、オリムピックではアムステルダム、ロサンゼルス、それぞれ3位、伯林7位であったが極東大会には強く、大正14年マニラ、昭和2年上海、5年東京、9年マニラと四連勝を遂げ、鶴田以下の日本の平泳陣は最後迄勝てなかった。極東大会は昭和9年を最後として廃止された。

閑話休題、予選会の結果代表選手になれなかった小山、鍵本は共にオープン選手となったが、本大会には小山独り出場して、オープン

ンの400に3位に入賞した。

対大阪商大戦

この年の神戸は鍵本、熊野（高商25回）が大学に進学し（学昭8）だが、新入部員はなかった。之に対し大阪は背泳の黒山が卒業したが代りに大東が入学し、むしろ強化された。黒山という人は変った人で一時南方と改姓し、三年制の高商でありながら、阪神戦に4回出場している。

この年も亦神戸は力泳して実力の優る大阪に勝った。競技8種目の中リレーを含め6種目の一位を大阪が取った。神戸は50（三吉）と平泳（小山）の二種目に一位を取ったのみであったが、71対65で神戸が勝った。試みに3着迄の得点を321で計算してみると、21対21でチャンピオンシップ6対2で大阪が勝つのであるが、6位までの神戸の得点を調べて見ると個人種目6種目の内5種目で神戸が4着を取っている。残る1種目は平泳で之は神戸が123を取っている。残る1種目は平泳で之は神戸が123を取っている。つまり全種目4着は神戸であった。光栄ある4着の神戸の選手は次の通りである。100塩見芳三（昭7）後に蟹田と改姓、400太田清（昭7）800小山（学昭7）背泳川西武雄（昭7）50山田（学昭7）勝敗の決は実にこの4着にあったのである。

三商大戦

阪神対抗で6種目を制した大阪は、着実に得点し、大阪53、神戸49、東京45となつて優勝を大阪が擲んだ。優勝種目は大阪が金森で

100、400を取り、東京は背泳（松下喜市）800リレー（松下、光広、三浦、佐原）を取り、神戸は200リレー（草野、山田、三吉、熊野）800香山、平泳、小山と三種目を取ったが、惜しくも二位となった。東京は渡辺文蔵（現味の秦社長）以下多数卒業して、得意の200リレーに3位となるなど劣勢であった。卒業したばかりの渡辺が玉川プールで後輩を叱咤激励している姿が眼に残っている。

その他

この年から神戸インターカレッジが始ったが、関学が断然強く、114点を取って優勝し、神戸は46点で二位であった。

和高商戦は、神戸のプールで行い、31対25で神戸が勝った。

関西インターカレッジ

平泳、同大の岡島は往年の元気なく、小山、鍵本が楽に1、2、着を占めた。この年はモデルリレーが新種目として登場した。パタフライはまだなかったで、背泳、平泳、クロールの三百米リレーである。何とか今年も四位を維持したいと思っていたが、その強敵は広島文理大であった。広島はフリーが強いが、平、背、がいない。大体当時の神戸は200リレーは強いが（三商大1位）800リレーは弱い（三商大3位）ところがこの得意の200リレーが広島には通用しないのである。結局新種目モデルを神戸が4着6点、広島は〇、200、800両リレーは何れも神戸5着、広島4着、個人種目で広島は自由形で50から800まで各種目に得点したが計11点、之は神戸が平泳き1種目で帳消しにした。リレーは神戸は3種目で14点、広島はフリ

12種目で12点、結局25対23の僅差で神戸はこの年も、4位を確保した。又、弱い800リレーを5着にするためには人知れぬ苦勞があった、というのは800リレーのエース香山孝一がインカレ不出場を宣言して出てこないものである。致し方なく、太田、小山、草野、山田のチームを組んで出泳したが、アンカーの山田がそれ迄先行した三高を抜いて5着にはいったのであった。

〔昭和6年〕

香山孝一、三吉吉郎、植木実就、北条貞夫（何れも昭6）が卒業したが、広島高から板野亀八郎（以下何れも昭9）長崎高商から岡康五郎（卒業後に高島重次郎と改姓名）草場喜六、山口高商から宮本伯夫、大阪高商から神戸商大に入學して、水泳部の中のデリケート立場に自らを置くことになった小西熊雄もはいつて来たので俄然水泳部に活気が溢れてきた。小西はもと根岸姓で昭和3年から5年迄大阪の短距離のエースとして、阪神対校戦は勿論の事、三商大にも活躍したのである。それが、この年には大阪としては小西のみならず、背泳の黒山、短距離の島本等が卒業して戦力低下し、小西自身としては弱くなった大阪を去って強くなった神戸にかわって大阪に打撃を与えるに忍びなかつたものと思われる。表現としては拙いと思うが、「母校の末路あわれ」などという様なことを口癖の様に、つぶやいていたのを想ひ起こすのである。次に問題であったのは岡である。彼の在籍した長崎高商は前年の全国高商大会で、清川正二（ロスアンゼルスオリムピック優勝）を擁する名古屋高商

に次いで2位を獲得したが、そのチームの一員として、200米平泳に優勝しているのである。ところが神戸は名にしおりブレスト王国であるから全国高商の優勝者といえども二百米で神戸の小山、鍵本、熊野の3人に比して5/6秒おそいのである。これ又山田同様繰りに転向して貰う他はない。香山の穴を埋めて貰うこととなった。

対和歌山高商戦

神戸から船に乗って和歌山高商プールへ遠征した。和歌山意外に強く、59対56でやっと勝つことが出来た。100、200、800リレー、背泳は和歌山にとられ、400、板野、平泳、小山、200リレー（小西、熊野、板野、山田）を神戸が取った。一位の数は和歌山が一つ多いのであるが、背泳で一位を薦井にとられたものの、234を太田、草野、川西、が取って勝を制したのである。

神戸インターカレッジ

関西学院が各種目三名宛エントリーして完勝を期して出泳130点で優勝した。神戸は37点で前年よりも更らに差が開いた。前年は個人種目50、三吉2位、草野5位、山田6位、100、山田3位。平泳、鍵本2位小山3位、背泳草野5位太田6位、800、400香山各4位計30点に対し六年には平泳、小山1位熊野5位、50、山田3位小西5位400、板野5位、200、板野5位、800、岡4位計21点に止まったからであつた。

大阪商大戦

邪推であるかも知れないが、短距離のエース小西を失った大阪と

しては、多分神戸は小西を出さざらうから、之に勝てる金森を短距離に廻し、中長距離を小寺、泉原にやらせよう、と策戦したらしい。ところが之が裏目に出た。神戸は小西の気持を尊重して200リレーにのみ出場させて、短距離を山田に任せた。結果は50、100共に山田が金森を抑えて1位を取り、400、800は何れも板野が泉原を抑え1位を取り、800は岡が泉原に破れて3位になったが、400では之を抑えて2位となり、結局大阪は背泳に大東が1位を取ったのみで、あとは神戸が全部1位を取って、86対50と大勝した。結局は神戸が勝つたとは思うが、金森を短距離に出したのは大阪の作戦の失敗であつた。三商大では金森が400、800に優勝しているのである。この三年間阪神戦に関する限り、大阪は全くついてなかつたといふべきであらう。

三商大戦

神戸商大新聞に「辛うじて勝つた水泳部」と冷やかした半分の記事を書かれたが、神戸は全く好運の勝を拾った。東京は短距離に栖原正を入れ、捲土重来優勝を期して甲子園に臨んだ。大阪は金森が400、800に1位を取ったが100フリー、平泳、背泳に56位となつて、全く振わず、神戸、東京の決戦となつた。200リレー、東京は栖原、光広、松下、佐原、之に対する神戸は草野、小西、熊野、山田のオーダーで臨んだ。スタートから大接戦だったが、熊野が東京の松下を二米余引き離し、山田が佐原の猛追をかわして神戸が勝つた。800リレーでは神戸は大阪にも敗けて3位、個人種目では、神戸は平泳で完勝したが、背泳で完敗し帳消し100は山田1位熊野3位、その他岡が400、

2位、800、3位で結局東京56、神戸56と同点となった。チャンピオンシップ神戸3、東京2で、まさしく神戸の辛勝である。

之で三商大戦は開始後三年経ったのであるが、三校共にこの時点で1位1回2位1回3位1回という結果になった。三商大関係者以外の人達からも「ナカナカ好い試合ですね」と褒められた。

関西インターカレッジ

神戸インカレの再版という位に関学が圧倒的に強かった。というのは今迄同志社高商は同大高商部ということで、同大として一本で出場していたが、この年はたまたま同志社高商が強く、全国高商大会で、名古屋高商を抑えて優勝して居り同大を離れて高商として独立して出場したのである。只さえ関学に勝てない同大が二分したのでは関学の優勝は当然の事となつてしまつた。

第一日は800決勝とメドレーリレーが行われたが、800では岡が関学の3名に続いて4位となり、同高商の二人を5、6着に抑えこんだ。メドレーでは、同高商の河合は草野をリードしたが、小山が之を抜き返し、山田また力泳して3位となった。之で第一日の得点は、関学27、神商大11、同大10、同高商9ということで神戸は2位であつた。

第2日、平泳は小山、鍵本が関学の3人をおさえて1、2位を取つた。背泳草野6位、50熊野、山田それぞれ、56位、400、岡5位、個人種目で17点を取つたが、同高商は100、200、背泳3種目で計11点、リレーは神戸800、6位、200、4位で8点、結局神戸36点、同志社高

商31点で、全国高商の優勝チーム同志社高商は神戸商大に敗れたのである。神戸は関学124点、同大、45点に次いで3位となった。之が今迄の神商大最高の成績である。

〔昭和7年〕

小山、山田、草野の学部1回3名と、川西、太田、塩見の高商26回3名計6名が一挙に卒業したので戦力の低下は蔽うべくもなかつた。本間孝之助（小樽高商）、池谷俊一（福島高商）、糸川義男（神戸高商）が学部4回生として入学し之を補うべく努力した。

大阪商大戦

神戸も弱くなつたが大坂もビカ一金森文太郎が卒業して戦力は低下した。こうなると小西もリレーだけというわけにはいかない。神戸は50、100は小西、400、800は岡、平泳は鍵本、200リレー（小西、熊野、本間、岡）と8種目中6種目に1位を取り、大坂は背泳（大東）800リレーの2種目を取つたのみであつたが得点は意外に接近して68対66で辛うじて神戸が勝つた。「関西のプレスト王国」の神戸の神話は崩れた。過去6年の長きにわたつて、平泳に完勝してきた神戸であつたが、この年3着を大坂の前田に取られた。然かも前田はこの後昭和8年から11年までこの種目に4連勝している。之は阪神対校戦の最高記録である。ずつと後になるが、神戸の岡村司（昭34）が背泳で4連勝している。前田は私の天王寺商業の後輩で、私は前年学生々活の最後の夏休ということ、伊勢二見ヶ浦の天商水泳部の合宿に参加したがこの時彼は5年生であつた。

三商大戦

東京は背泳の松下が卒業したが、名古屋高商の水谷卯三郎（背泳、中距離）が入学した。水谷は昭和3年、中学東西対抗で私が西部の監督となった時の西部代表選手で、作田耕三、北条貞夫、の市岡商業の後輩であった。神戸は昇格したのではないが、大阪よりは名古屋の方が強いというので、名高商の当時の主将であった、林年松（後に東海学連名誉主事）に私が紹介の労を取った。目出度く名古屋に入学し、全国高商で好成績を挙げた。私としては名古屋を出たら神戸へ来てくれという希望であったが、彼は東京に入った。又同じく全国高商大会で高松高商にあって短距離に活躍した多田精一という人がいたが、この人は昭和6年に東京商大に入学していたが、その年の三商大には出てこなかった。パーティの席上私が東京の主将にこの話をしたところ、東京は之を知らなかった。多田は恐らく神戸の東光の様に大学では水泳をする意思がなかったのであろうか？。ところが昭和7年には多田が三商大に出場してきたのである。この二人の参加によって東京は断然強くなり、東京64、神戸35、大阪28と、阪神両軍の得点を合計しても東京に勝てないという大勝を博した。200リレー（多田、栖原、世良、佐原）800リレー（栖原、世良、水谷、佐原）で何れも1位、100に栖原、多田が12位、400で水谷、佐原が12位、と完勝したのに対し、神戸が東京の二人の中に喰い込んだのは、800、岡2位、平泳、鎌本、熊野23位、背泳、本間孝之助（昭10）3位ぐらいのものであった。憐れをとどめたのは

大阪で、100と平泳に56位と完敗し最下位となった。流石神戸は56位になった種目はなかった。

神戸インカレは得点18で6校中5位、関西インカレは得点1で11校中10位となった。

昭和8年

関西のプレスト王国最後の担い手、鎌本、熊野が卒業したが、関西学院から野村弘、佐賀高校から大槻繁、古賀克己、小樽高商から小池三郎が入学した。何れも旧制学部5回、昭和11年卒業である。但し大槻は卒業していない。

野村は関西学院在学4ケ年、短距離に活躍した一流選手であり、天才的な泳法でなかなか衰えなかった。大槻は大正末期、和歌山中学在学中、全国中等の背泳で二連勝して居り、大正15年の日本選手権では3位となって同年行われた報知新聞主催の日米対抗競技の日本代表選手であった。その後佐高に入学して、全国高校でも大いに活躍したが、神戸に入学した頃は大分力が落ちていた。

対大阪商大戦

シーズン始め、神戸商船と練習試合を行い之を38対32で破り、その余勢を馳せて、大阪に86対56で大勝した。平泳は弱くなって、大阪に完敗した。プレスト王国を知る者にとって感慨一しを、というところであったが、50には、野村、大槻、小西で完勝した。又背泳は大東が3連勝していたが、大槻が之をおさえて1位を取った。フリー中距離は今迄大阪が強く、昭和2年以来、6年間のうちに800リ

レー(昭2は40)には神戸は一回しか勝っていないが之にも勝って、平泳を除き神戸の圧倒的な勝利であった。

神戸インターカレッジ

野村が50、100に1位を取って関学をおびやかしたが、後援続かず得点計20点で6校中5位であった。

三商大戦

東京商大にロサンゼルスオリムピック(昭和7年)背泳優勝の清川正二が入学した。背泳世界一の彼はクロールも早やく、彼の在学3年間に三商大の最高記録に平泳を除く全種目に彼の名が刻まれることとなった。こうなると神戸の作戦は清川の出ない種目を推理して、野村をそこへ当てはめることが中心となってきた。この推理が当ることもあったが、当らぬこともあった。それでもこの年は前年の35点よりも多い41点を獲得し2位を確保した。重なる結果は次の通りであるが、一種目も1位にはなれなかった。

100、2位野村、400、2位宮本、800、3位岡、背泳2位大槻、平泳3位大槻、昭和6年マネーチャイをしていた宮本がクロールを練習して400、2位、800、4位になった事と大槻が平泳で3位になったことは当時としては注目に値する力泳であった。

関西インターカレッジ

野村流石に強く、50、3位100、4位で7点を取り、リレーは200、4位、メドレー、800、各6位で合計17点で、関学、関大、同大に次いで4位になった。

かくて昭和9年7月8日、神戸商業大学は30年住みなれた上筒井から六甲台に移転した。私の書く水泳部の歴史も之で終る。あとは時期時期によって幹事をきめて引き続き書いてもらいたいと思ふ。

◎ 凌霜会員の皆様へ

(文中敬称略)

既に御承知の事とは存じますが、会誌「凌霜」に、小山凌泳会長が「上筒井における水泳部の歴史」と題して、黎明期の水泳部の様子を連載して頂いております。53年11月号に始まり、54年11月号迄、五回連載の予定です。御期待下さい。

日本中等東西対抗の事

会長 小山 賢之助

関西の方でも関東の方でも、正式にインターカレッジの大会の開かれたのは大正十三年からであったが、東京は「関東」とは言わずに「全国学生水上競技連盟」と称して居り、始めのうちは、全国と関西と実力の差は余りなかったが、次第に差がついて、学生同志では全く歯が立たなかった。ところが、中学校(旧制)の水泳大会は好勝負になりそうであった。大正の始めから、関東では東大、関西では大阪毎日新聞の主催する中等大会があつて、何れも「全国」

と称していたが、学連が次第に成長して、中等学校の大会がやれる様になったので、関東、関西それぞれ、学連が中等大会を主催することになり、昭和二年に東西で対抗戦をやるうではないかということになった。之は非常にいい勝負で、昭和九年まで八年間続いたが、関東の五勝三敗という成績が残っている。この対抗戦は、東西優勝校対抗と、選抜軍東西対抗の二つに分れ、それぞれ好勝負を展開して、日本の水泳の発展に大いに貢献するところがあった。昭和五年六年のこの大会の参加者の中に、横山隆志、北村久寿雄、宮崎康二、牧野正蔵、武村寅雄、河津憲太郎、小池礼三、片山兼吉、石原田恵、大横田勉、杉本盛、遊佐正憲、鈴木正雄、等の名前が見えるが、これらは皆ロスアンゼルス日本水泳世界征覇の有力メンバーであった。日本水連四十年史、六十頁に、「東部中等は全国学連、西部中等は関西学連が主催し、東西対抗は、水泳連盟が主催した」と書いてあるが、之は誤りで、東西対抗は全国学連と関西学連の共同主催で、開催地の学連が当番校となって会を開いたのである。昭和二年は大阪で開かれ、監督コーチは、川口（東商大）、渡辺（立大）が東京から東部の選手を引卒して大阪の築港にやって来た。西部は、田村（同大）石田（関学）が監督コーチで結果は西部が勝ち、東京方が口惜しがったのを今でも覚えてゐる。翌三年は東京の芝ブールで行われたが、京大の上田君と、神戸高商の私が、監督コーチということになった。上田君は当時は既に泳手としての盛りを過ぎていたが、かつての背泳の第一人者として極東大会で活躍した人であるの

で、泳ぎの方を担当することとなり、私が会計を始め裏方を勤めることとなったが、私は今でいえば成人式も済んでいない、満十九才何ヶ月の若造であったから、学連主事の中村元一氏は東京まで来て色々指導下さったことを今でも覚えてゐる。西部軍志気高揚のため、一夕西部選手約三十名に豪華なディナーをご馳走してくれたが、これは大阪毎日の費用でなく、同氏のおごりではなかったかと今でも疑問に思っている。

その後日本水連はエール大学のキッパス監督と「ふんけいの交り」を結ぶに至り、日米対抗を昭和六年に開く他、毎年の日本選手権に米国選手を招いて、水泳熱の向上に努め、大なる効果を挙げたが、これらの外国選手を東京から直ぐに返えしてしまつて大阪へは連れて来ないのである。従つて、有力な西部出身の選手が、皆東京の大学に行つて、関西はますます関東と水をあけられるという結果になった。但し、東京で開く東西対抗は、当時としては世界一流の水準であるにも、かわからず、外国選手を見慣れている東京のファンは見向きもしないのであるが、大阪で行う東西対抗には関西のファンが大勢見に来てくれて、関西学連の会計を、うるをしてくれるという副作用があった。

昭和六年、私は再び西部の監督を勤めたが築港のブールに一万五千の観衆が集つたのには驚いた。当時の関西における水泳のメインイベントであつたのである。

第一回 凌泳会全国大会記

昭 27 石 井 義 章

凌泳会全国大会。この呼称に奇異の念を抱かれる方があるかもしれませんが。何故なら、毎年五月の総会、或は九月の月見の宴、これらは凌泳会全員に呼びかけた、全国的な会合だから、常に全国大会の筈だからです。

しかし、実際、これらの会合に出席されるのは阪神間の極く一部の会員だけと云うのが実状です。一方、東京その他の地方で、凌泳会員が集まり、楽しい一時を過したと云うお話を耳にします。そう云う、支部単位の会合を、何かの機会に合同して、全国の会員が一堂に会する様な催をやるのではないかと云う事で、数年前の総会で、この案が可決され、裏付となる資金も、毎年凌泳会費から二万円を、全国大会基金として積立てて来た次第です。しかし、何時、どこでと云う具体的なプランはありませんでした。

さて、昭和五十三年初頭、凌霜会に用あり、増田事務局長と話している内に、今年は、神戸高商開校七十五周年に当るので、五月十三日、六甲台に於て盛大に記念式典を催し、併せて、凌霜会全国大会を開催する予定だと云う事を聞きました。尚、式典後本館前庭の芝生で園遊会を行うのでクラス毎の会合或は運動部の会合等も希望あれば特別席を用意するとの事。早速、萩原幹事に連絡、今年の総

会合は、これに日を合せ、更に総会終了後、園遊会に合流し、第一回の凌泳会全国大会をやるかと云う事にした次第です。

二月、三月とその日が近づくに従って次第に計画も具体化し、園遊会場に凌泳会として、特別指定席を設置してもらう事にしました。これには三万円の協賛費を要しました。又、この園遊会出席者は参加費として一人五千円が要るのですが、酒、ビール、ジュース等飲物の外、焼鳥、すし、おでん等の模擬店とすべて飲み放題、食い放題で充分その値打はあるとの事。しかし、ここで困った事は凌泳会には、凌霜以外のOBもいるがどう扱いか、又、学生をどうするかと云う事です。種々折衝の結果、OBについては、凌霜以外の方も五千円を支払ってもらい。又、学生については、一人千円として、概数三十人分、三万円を支払うと云う事で、手を打ちました。

さて、いよいよ、五月十三日、前日の雨もカラリと上り、六甲台は滴る様な新緑におおわれ、正門を入り、正面石段を登ると早や、紅白の幔幕張り巡らされ、創立七十五周年記念式典会場として、祝賀ムード一パイ。

先はプールへと、足を運ぶ。まだ、OBは誰もお見えてないが、学生諸君が机を並べたり、椅子を運んだり、準備に忙しい。やがて次々と懐かしいOBの顔が見え、中には早速一泳ぎとプールに飛込む元気なOBも居られます。

一時過ぎから、会場を教官食堂に移して、総会の議事に入りました。この報告は別の方に書いて頂く事になっていますので、割愛致

します。

当初の予定では、一時から二時間で總會を切上げ、三時からの園遊会に合流するつもりでしたが、全国各地から珍らしいOBの方々多数御出席頂き、その数約四十名、自己紹介頂くだけでも相当時間がかり、更に会費問題その他、熱心に御討議頂いたので、大巾に時間オーバー、四時頃、やっと終了。直に、園遊会場にかけつけました。

こちらは既に一時間を経過して、宴、甜、凌霜以外のOBはまだ会費を払ってないからと、受付へ出向いたが、こちらの係員も、園遊会へ行ってしまったらしく、残ってる人に尋ねても要領を得ない。第一、資料や記念品も残り残ってないし、料理も大部減ってるでしよから、もうよろしいでしよと云う事で、そのまま会場へなだれ込む。会場は予約していた通り、テント一張、「凌泳会」と書いた立札と共に用意してありテーブルの上には料理がまだ荒されずに盛上げてある。又、ここで、クラス会等の関係で總會に出席出来なかった、OBの方々数名とも合流する事が出来ました。

会場一隅のステージでは、大太鼓を打鳴し乍ら、朴歯の下駄に白線帽の子科出身者が、昔懐かしい哀歌「春筒台に草萌えて」或は「嗚呼雲霓」を絶叫している。代って「ああ白陵の春の青」と歌い出したのは、旧制姫高出身者か或は、新制姫路分校で、学んだ者だろうか、皆一様に、三十年、四十年、五十年の昔に帰って、飲み、かつ食い、かつ歌い、やがて、スクラム組んで輪になって「男児一たび

立たん時……」と乱舞、日頃の憂さもストレスもすべて忘れて、弊衣破帽の青春時代に戻った様子です。

わが凌泳会員、一時間の遅れを取戻さんものと、ピッチを上げて、力飲、力食。又、昨シーズンの現役部員の活躍を称えて、獲得したカップに日本酒をなみなみと注ぎ、飲み回す。正に勝利の美酒と云うべきでしょう。

その傍で、白山源三郎長老と小山賢之助凌泳会長が、水泳部長山田幸男教授を交えて、樹酒片手に何やら楽しげに談笑しておられる。こんなに沢山のOBが集まられたのは、私の記憶する限り、初めての事である。しかし凌泳会員二百六十名から見れば、二割に満たない。全国大会と云うには少々淋しい。何時の日か、第二回の全国大会をやりたいと思います。その折には是非、多数のOBの御参加をお願い致します。

あたりが何となく静かになった様な気がして、見回すと、何時の間にか、残っているのは吾々だけ、まだ飲み足りぬ様な顔も見られませんが、この辺で打ち上げるべしと、最後に、凌泳会の発展と、水泳部の活躍を祈って万歳三唱し、楽しかった一日の幕を閉じました。

〔出席者・敬称略・数字は卒業年次〕

山田幸男（水泳部長）白山源三郎（大10）尾上長三郎（昭4）植木実就（昭6）小山賢之助（昭7）池谷俊一（昭10）野村弘（昭11）大内義仁（昭14）満野公介（昭14）中村市治（昭15）山口宗樹（昭16）前田寿（昭16）尾上信三（昭17）上田宇一（昭18）井上清（昭

19) 稲垣信夫(昭20) 小西信次(昭23) 中井三郎(昭27) 山本幸雄(昭27) 石井義章(昭27) 堂本直正(昭30) 冨岡道雄(昭31) 松田司朗(昭32) 山口仁郎(昭32) 岡田昌三(昭32) 北村敏(昭34) 柴川泰介(34) 上村久治(昭35) 野田浩志(昭36) 萩原武(昭37) 平岡昭朗(昭38) 丸山昱也(昭40) 佐敷定雄(昭49) 印南修三(昭49) 藤森一男(昭50) 平石康(昭53) 後藤信人(昭53) 酒井正人(昭53) 塩浜英二(昭53) 平野輝雄(昭53)

以上四〇名

生 造 り

昭36 B 野 田 浩 志

昨年(五十三年)五月十三日、母校の創立七十五周年記念の凌霜全国大会の園遊会でのことである。例によって凌泳会は定例総会のあと、ヒマラヤ杉の繁る六甲台前庭へと流れ込んだ。斟酒を交わすうちに、石井幹事長、山口仁郎先輩のご発案により東京から御出席の小山会長に久しぶりの神戸の休日を楽しんで頂くとういうことになった。山口先輩のヨットで家島行きである。山田教授・水泳部部長をお招きし、萩原武(新10)君、そして私は文字通り便乗させて頂くこととなった。

神戸で過された凌泳人には、今更説明は不要かと思いが、家島は姫路の沖あい十数キロ、丁度姫路・赤穂を底辺とする正三角形の頂

点に位置し、家島本島の他、幾つかの島々から成る家島(いえしま)諸島と呼ばれる。もともと漁業を主産業とするが、関西でも数少なくなりつつある自然を求めてハイカーが、釣人が、夏には海水浴が訪れる。今では県の青少年いこいの村まで設けられている。目的地はこの諸島の中の男鹿(たなが)島である。

五月十四日、朝、さわやかに晴れわたった日曜日、石井先輩と私は六甲山ホテルで御宿泊の会長をお迎えし、航路のヨットハーバーに向う。学生時代から六甲山へは大学の西側から攻めるものとして地理感の出来上っている私には、住宅地を縫って、大学を東側から左巻きに登るコースに馴染めない。私達の学生時代末期(日本経済の高度成長期のスタートにあたる)に始った大学周辺への住宅の侵略は大学の環境を変えてしまった。会長から「上筒井はどこか」と尋ねられた私は、王寺動物園の西側を指して答えた。やはり、会長には上筒井を基点として神戸の街を眺められたのであろう。

阪神高速道路・摩耶ランプで、山田教授・萩原組の自動車と合流。午前十時前、姫路市の東、八家(やか)川河口の木場港にあるヨットハーバーに到着した。

真つ黒に日焼けされたキャブテン山口先輩と今は、結婚よりヨットが好きという先輩門下の高橋輝子嬢に迎えられ、一行直ちに海の人となり、お嬢さんの舵で25ftの「いそしき号」は穏やかな海面を男鹿島に向けて滑り出した。

この木場港と男鹿島は、私には少なからぬ因縁がある。昭和四十

八年のオイルショック以前の日本列島はレジャーブームに湧き、ありとあらゆるものが金の成る木に見えた頃のこと、我社（当時出向中）も海洋レジャーに進出、モーターボートの販売を手がけたことがある。ボートを売るのは車庫のない人に車を売るむつかしさの比ではない。海や湖に面した保管場所即ちマリナーが必要なのである。業界紙誌によれば、日本は世界一長い海岸延長距離をもっているというが、農業に於ける入会権に似て、あらゆる水面に漁業権なるものがつきまとい、組織的に事業を展開しようとすればする程、これへの補償は幾何級数的に膨れ上る。私企業ではとても割に合うものではない。たまたま、この八家川の上流での工場廃液により河が死にかかっていた。河川浄化・漁業組合の新規事業としてのマリナー・家島の青少年村・ヨット、ボートディングによる青少年海洋活動をセツトにしたプロジェクト。題して「青少年対策」を県に持ちかけ協力を求めたことがある。

七年半ぶりに訪れた木場港にはヨットのマストが立ち並び、モーターボートが居並ぶマリナーに変っていた。然し八家川の水はまだ変っていない。鼻をつくメタンガスの臭いもそのままだった。山口先輩によれば一度はこの河に落ち込まねば一人前のヨットマン（ウーマン）にはなれないそうだ。青少年対策は県や企業の口上よりも我が先輩の方がはるかに成果を挙げておられるとの印象をもった次第。

ほとんど無風状態の中をヨットは行程の半ばをエンジンで走ったあと

軌走に移った。高橋嬢の舵さばきには何の危げもない。我々は伍ビールの栓を抜き身を波のうねりに委ねる。五月にしては強すぎる位の陽差しを浴びて男鹿島がもう目前となってきた。

この島に最初に来たのは今から二十三年前の大学受験浪人の頃、仲間と連れだつて夏のキャンプに来た、以来何度か来たことがあるが、その都度、島の形が変わっている。この諸島、採石でも有名なのである。若き日のキャンプの思い出の地を探しめぐねている間に舟は棧橋に横づけされた。水は澄み、海底に泳ぐ魚が見える。昔とは変っていない。漁から帰って来た魚船が魚の仕分けの作業中に、近くの採石場の飯場のオカミさん達が魚を新聞紙に包んで買って帰っていた。イグスの中を窮屈そうに泳いでいる大ぶりの鯛やスズキが、この海で漁れたものと実感を持つまでに相当の時間を要したのは私だけではなかったらう。

中村荘は我々一行を迎えてくれた民宿である。二階の窓から、今来たばかりの航跡を追いつつサントリースタイルで乾杯。やがて大漁舟に乗って料理が運ばれて来た。「生造り」に煮付もある魚料理オンパレードだが、いづれも先程会ったばかりの魚達らしい。食べて形を変えるのが惜しい気がした我々は何度か角度を変えて写真を撮った。今手元には、石井先輩から送られて来た写真がある。鯛が今にも飛び出しそりに踊っている。

凌泳五十三年度号には、小山会長が「凌泳会の歴史」として日本水泳界の歴史と共に歩んだ凌泳会の姿を御寄稿頂いているが、今日

一日は日本水泳界の発展と共に歩まれた会長から数多くの裏話を伺いする機会に恵まれた。

学業のみならずスポーツにも、若いエネルギーを投入された我々の先輩が、社会に於ても各界で指導的役割を果たされている。この神戸の伝統を守り抜く気概が若い世代に必要なことの私の感想をお伝えしておきたい。

「腐っても鯛」と言われるが、私には、切られても飛び跳ねる

「生造りの鯛」の方が活力を感じられる。

初泳ぎ雑感

昭30 T 橋本 力

一月十四日(日)、西代県民スポーツ会館の室内プールでの初泳ぎに、現役が十六名、OBが八名参加した。古いOBはお屠蘇気分が抜けないからか、平素のトレーニング不足を懼れてか、淋しい限りだったが、現役は流石に多士済々、しかも女性が混じっていたのは驚きやら嬉しさやら、隔世の感ウレシ入で、現役の諸君が羨しくもあり、また、水泳界の向上のためにも甚だ喜ばしい次第で、今後の活躍を期待したい。

さて、泳ごうとしたものの、スイミング・スクールの練習時間と重なったため、プールは子供たちで満員、とても泳ぐどころではな

く、形ばかりの初泳ぎをしたのち、サウナで汗を流した。いやはや、水泳日本のためとあらば、喜んでジャリ・パワーに屈しよう。

会館前の記念撮影、近くのレストランで現役とOBとの交歓会となり、石井先輩に昼食をご馳走になった。結局、初泳ぎ会というよりも、新年互礼会に終わったが、これもまた一興、愉快な半日であった。ここで凌雪会の例会(後でヨット帆走に変更)が三月四日

(日)と決定、めでたくお開きとなったのである。

ところで、一月十四日も三月四日も妙な因縁の日である。現役の諸君は今よりあまり速くない過去の日に、大学入試の難関を突破した秀才であり、OBは遙かな昔に受験に苦しんだのである。その記憶が薄れてしまっている石井先輩は、令息が国立大学を受験中であり、私とても、教え子が多数受験しているのである。その共通一次試験元年の第二日目が一月十四日、二次試験が三月四日なのである。私たちの結びつきは、大学という場を通してのものであり、その入学試験の日に、親と教師と大学生とが、わが子・わが教え子・わが後輩たちの大学受験をよそに、何の面白味もない水泳に年令を浮世を忘れてうち興じる、これこそ初泳ぎ会の醍醐味であろう。

年々歳々、この催しが盛大になることを祈ってやまない。最後に、OBの参加者を記す。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 石井義章(学22) | 橋本力(新3) | 木村多加緒(新18) |
| 松山玄彦(新24) | 平石康(新26) | 後藤信人(新26) |
| 酒井正人(新26) | 平野輝雄(新26) | |
- (解散後、萩原氏が来会されたそりである。)

「凌雪会」海に集合

昭34 E 北村 敏

暖冬異変であった。冬だというのに寒くならない。二月に桜が咲いた、竹の子が頭を出した、など、各地からいろいろな異変現象が伝えられる。雪は、当然降らない。だから、ここでも、また一つ異変がおきた。

まずは、私が何故ここに登場することになったか、そのことからご説明しよう。

例年、冬には地元の凌雪会の有志が集って神鍋高原でスキーを楽しんでおられることをご存知の方も少なくないであろう。これが、かの有名(?)凌雪会である。メンバーは、スキーのインストラクターの資格保有者とか、一級ライセンスの保持者とか、その道のベテラン揃いと聞いている。私もずっと以前に、何度か誘っていたのだが、私は生れてこのかた、スキーをはいたのは二回だけである。要するにスキーはできないのである。だから寒いのは嫌なのである。冷いのは(プールの水もそうであったが)好まないのである。だから、その都度お断りしていたところ、いつの頃からか、全然お誘いがかからなくなった。しごく当然のことである。

ところが、今年は雪が降らない。スキーができない。といって、来年雪が降るのを待ってもいられない。何かしなきゃ、ということ

で、急拠、山口仁郎さん(B5)所有の三十フィートのヨット(K30)をいそしきで播磨灘を帆走することになった……という話を聞きつけて、早速、その夜、山口先輩のお宅に電話をかけ、スキーでなくてそちらの方なら是非にと頼みこんでOKを得た。こうして、私も、三月四日、春うららの播磨灘へ船出をしたのである。詳細は、すぐ後ほど報告する。まずは、何故、私がこのレポートを書くことになったかというお話の続きを聞いていただく。

昼食後の歓談のときである。

山口先輩「最近、凌雪会への入会希望者が多いので、今日から入金十万円とることにしよう。」

石井先輩(学22)「賛成。」

私「……………」

石井先輩「北村くん、今日のレポートを凌泳に書け。締切は十日や。そしたら十万円まけたるわ。」

私「原稿料十万円やったら、そら書きますワ」

以上が、私が、ここに登場することになったストーリーの全てと、いうことである。それにしても何か書くということは大変なことであります。

さて、当日、三月四日は、春の日さしのやわらかい絶好のセーリング日和(と私には思えた)で、姫路市木場のヨットハーバーに集合したのは、石井義章さん(学22)、橋本力さん(T3)、山口仁郎さん(B5)、野田浩志君(B9)、高岡保宏君(P10)、米田

啓祐君（P10）、平石康君（P26）に私、北村敏（E7）の八名の
凌泳（雪？）会員と、野田君の息子たち（小五・小四）とウチのガ
キ（幼稚園）を合せた十一名である。これに、△いそしき▽のセー
リングマスター利根川さんが加わり、計十二名が船に乗りこんだ。
出港は十時。その直前まで、ハーバーには、萩原武君（T10）の姿
があった。何でも部下の結婚式があり、残念ながら参加できないと
のこと、誠に残念そうでありました。

さて、風はおだやか、日はうらら。艇はゆっくりとハーバーをす
べり出した。絶好のヨット日和、と思ったのは素人のあさはかさで
あった。風がないので艇は一向に前へ出ない。止むなく補助エンジ
ンを使って走ること約一時間、瀬戸内海に浮ぶ無人島△鞍かけ島▽
へ到着した。早速、昼食の用意が始まる。オーナーの山口さんが予
じめ用意された材料を、山口さんと利根川さんの二人が艇の中の調
理設備を使って手ぎわよく料理しはじめる。

子供達は、もうその辺りにはいない。島の岩をよじ登り、どこか
へ行ってしまったらしい。時折、遠くの方で声がする。平石君がっ
いていってくれたが、ガキ三人のお守りも大変なことであろう。高
岡君が、バケツとステンレスのへらをもって現れる。磯をまわり、
岩にへばりついている△かき貝▽をさがし、見付け次第、殻をヘラ
でたたき割り、身を、とってバケツに入れる。天然なまがきである。
たちまち、十数個獲れる。

そうこうするうちに、料理ができて始める。一同、岩の上に並べる。

なんと山菜メシが炊けている。酒は、ロイヤル・サルート20年もの、
バレンタイン12年もの、サントリイロイヤル、ヘネシーブランデー
のナポレオン、それにビール。まさに、よき酒と山海の珍味。

うまい。実にうまい。誰いうとなく、しばし、学生時代、好んで
（？）飲んだトリスの話に花が咲く。確かに、あの頃は、サントリ
イ角なんてのは夢であった。

それにしても、飯の糧が減ったものだ。現役時代の合宿で、一人
一日、五合宛の飯が足りないといつて、夜な夜なパンを買いに合宿
所を出ていった（本当にパンが目的であったかどうかは知らない）
つわものどもが、これだけ集って、一升の飯が残るのである。とい
つて、酒の方がグンと進んだわけでもない。要するに、胃袋が小さ
くなったということであろう。

スキーの話、泳ぎの話……話をつきることがない。凌雪会専用の
山小屋をもとという話もでてくる。皆さん、私の廻りの同輩の
平的的なレベルより、かなりはげしくスポーツしておられるようで
ある。ここで、山口先輩から、某君が、スキー場に洗面道具だけ持
参して、背広着用で滑ったという秘話を紹介される。ハハァ、ナ
ルホド、要するにスキー場へ行けばよいわけですナ。では、来なか
ら、晩の雪見宴会にだけ参加することにしましょう。何しろ、小生
冷いのは好まないであります。

さて、ぼつぼつ帰るかということ、帰り仕度をはじめたのが、
三時頃である。

島を離れる。セールをあげる。△いそしき▽はすまじい勢いで走りだした。グーッと右へ傾く。波しぶきがデッキを覆う。海がデッキを洗っている。艇は右へ大きく傾いたまま、実にスムーズに、しかしダイナミックに走りつづけている。山口先輩が舵をにぎり、利根川さんが、全身ビシヨ濡れになりながら、動き廻る。山口先輩の指示で、前のセールをはりかえる。ロープをゆるめるやいなや、帆はバタバタバタと執こく駄々をこね、素直に降りてこない。別の帆をセットする。力一杯引き上げる。その間も艇は右へ大きく傾いたままである。大変な作業である。多分、朝のナギに合わせて大きな帆をはっていたのを、風に合わせてつけかえたのであろう。風速は、七〜八メートルとのことである。

しかし木場ハーバーに近づくに従って、艇は傾くことをやめ、デッキを打つ波しぶきもおさまってくる。

やがて、セールを降ろし、エンジンに切りかえ、港に入る。そして、無事着岸。

後始末も大変である。潮で濡れた帆を洗いマストに逆さにあげて乾かす。使った食器類を洗い、船内を片づけ……山口先輩と利根川さんは、相変らず忙しそうに立廻っているがこちらは何せ素人、何を手伝ってよいかも解らず、要するにのんびりと見物する。

最後に、ふたたび△いそしき▽のキャビン内に全員集合。全員着席。かなりの広さである。熱いコーヒーが出る。

利根川さん「今日は、お客さんだったからオートナシク走りました。」

山口先輩「動ける奴ばかりのせておれば、もっと好きなように走れてオモロイのやけどナ。」

ところで、山口先輩、最近はおっぱら、レーシング志向とのこと。木場ポイントなど、近くのレースには欠かさず参加しておられるそりである。

五時半頃キャビンを出て解散。非常に楽しく、素晴らしい一日でした。

会誌「凌泳」について

昭27 石井義章

54年度の「凌泳」で復刊第27号になる。復刊と云うのは、昭和初期、桑川先輩（昭10）の発案で創刊したと云うお話を古林先生から聞いたからである。唯、残念乍ら、その実物にお目にかかった事はない。出来れば最初からの通し番号にしたかったが、はつきりしないのに勝手な番号もつけられないで、復刊第一号から連番をとった。どなたか、戦前の「凌泳」お持ちの方があれば是非見せて頂き度い。又実物がなくともその編輯に携われた方があれば、その体裁、内容その他発行の苦心談等お聞かせ頂き度いと思えます。

さて、復刊第一号は、昭和28年4月10日発行で表紙に藤井正太郎先生の筆になる「凌泳」の題字を頂き、発行者は三宅林（凌泳会幹

事）・佐藤一夫（現役主務）となっている。この他村上秀造先輩始め、新制二回三回の諸君が苦心して復刊してくれたのだと思う。この時、凌泳を復刊するに至った経緯等、来年度の本誌には是非寄稿頂き度い。

私の手元には、復刊第一号からほぼ全巻揃っているのですが、時に取出して昔を懐かしんでいる。年によっては、ザラ紙一枚だけの「凌泳ニュース」と云うのものもある。又、発行が遅れて、暮も押つまつた、十二月にやっと発行と云う年もある。小山会長が「水泳の強い年はマネージャーがしっかりしており凌泳の出来も良い」と云はれた言葉を成程と思ひ出す。確かに52年度号（古林先生追悼号）、53年度号は、紙質も良く、写真も入り、記事も豊富で、立派である。今度もこの程度の、いやこれ以上に体裁も内容も充実した立派な会誌にする様、OB・学生皆さんの協力をお願いしたい。

◎ 発行の時期について

凌泳の発行時期は、シーズンが終つて、次のシーズンが始まる迄の間、具体的には、四・五月頃が良いと思います。内容は、前年の春の総会報告に始まつて、シーズン中の活躍・戦績・記録等をまとめ、シーズンが終つて、月見の宴の様子、OBの観戦記、現役部員の感想文、その他諸々の原稿集めを二月中に完了すれば、五月の総会時には、配本出来る事になります。この凌泳を見れば、前年の活動のすべてが分ると云うものです。又一方、学生諸君にしても、編

輯作業が、シーズンオフの二・三月と比較的、暇な時期に当り、都合が良い訳です。

所が、この予定がともすると、遅れ勝ちになります。その原因の一つはOBの原稿が集まらない事です。

凌泳会がOBの会であり「凌泳」がその機関誌であるならば、会員相互の親睦と交流を計る為、OBの記事は欠かす事は出来ません。しかし、このOBの原稿が仲々集まらないのです。皆さん、夫々にお忙しい事とは思いますが、身辺の出来事、面白い体験等、何でも結構です。長短を問いません。どしどし、お送り下さい。毎月、同じ様な顔ぶれが執筆しておたものでは面白くもなく、マンネリ化してしまいます。会の発展の為、凌泳誌の充実の為、来年と云はず、本号を御覧になつた感想でも今すぐお寄せ下さい。お待ちしております。

◎ 名簿の事

毎年、出来る限り正確な名簿を掲載すべく、努力しておりますが、尚、ミスが散見され、申訳なく思っております。昨年、月見の宴の案内の返信に「名簿掲載事項票」欄を設ける事にしました。今後毎年これを続けますので、変更の有無に拘らず必ずお出し願います。尚、その後の変更につきましては、二月末日まで訂正出来ますので、御一報下さい。

又、従来、卒業回数のみ記載しておりましたが、本号より、卒業

年次を併記する事としました。その理由は(一)、凌霄会その他、卒業生組織の多くが、年次を使用している為。(二)、新制大学は学部によって、卒業回数が異なり、回数表示では、前後の関係がはっきりしない為、等です。

◎ 会費繰出者一覧表

会の運営には資金が必要な事、そして、吾が凌泳会の運営資金は、OB各位の会費並に寄付金にたよっている事、御承知の通りです。所が、この会費が仲々思う様に集まらないのです。多数の会員の中には、色々考へ方の異なる方もありますので、百%は無理にしても、80%は集めたいものです。これは決して無理な数字とは思いません。事実、五十二年度は74%の繰出があったのだから、今一步と云う所です。

そこで、今年度より、会費繰出頂いた方々のお名前と金額を一覧表にして発表する事にしました。これについては、色々異議或は反対意見の方もあろうかと思えます。今迄も何度かこの種の事を試み、いつの間にか止めてしまった事実があります。又、名簿欄に、会費を出した方だけ、小さな丸印を入れた事もありました。しかし、そんな姑息な方法でなく、今年は氏名、金額を明示する事にしました。これは決して、出さなかった人に対するイヤガラセ等ではありません。会の唯一の財源である会費を、そして、皆様の汗と脂の結晶である貴重な会費を会員皆様にお知らせして感謝すると共に、間違ひ

なく、会の資金に繰入れられている事を御報告する為です。尚、学生のOB訪問につきましては、事情の許す限り、出向く様に云っておりますが、会費は、これとは別に、出来るだけ早く、振込で送金頂き度く、お願い申し上げます。



会員からの御便り

総会案内状返信より

○山田 幸男 (特)

会長はじめ、ご健祥の趣まことに嬉しくお慶び申し上げます。

小生も法学部の最長老の教授となつてしまいました。

水泳の方はサッパリですが、六甲山の登り降り歩きをいたして

おります。憲法演習、行政法総論・各論と経済行政法(大学院)

を担当いたしております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○木村 芳雄 (大15高)

自分の仕事を持っているので忙しく、お蔭で頭はまだぼけてい

ません。体も先づ先づ健康です。

今度は神戸へ行けません、一度凌泳会に出たいと思つていま

す。

○作田 耕三 (昭3高)

昨夏、肺纖維症と診断されてから、なるべく動かない様に自重

していますが、病勢はすすむ一方で、会社へ出ても殆ど一日横に
なつて居ります。残念ながらとても無理です、皆様によるし
く。

○北条 貞夫 (昭6高)

晴耕(ゴルフ場の穴掘り)雨読です。

○三吉 吉郎 (昭6高)

定時総会を控え、今年も欠席します。

御世話を掛け、感謝しています。体調は、頗る元気ですので、

再会を楽しみにしています。皆様に宜しく、おじん会長殿

○山田 常雄 (昭乙)

別便にて会費の代りに、金一万円御送りします。

○草野 嘉一 (昭乙)

五月十八日から二十二日にかけて北欧四ヶ国(デンマーク・ノ
ルウエー・スウェーデン・フィンランド)を家内と共にゆつくり
巡つて来ます。その準備などあつて凌泳会総会には出られませ
んが、御出席の諸兄に宜しくお伝え下さい。

御盛會を祈ります。一九七八・四・二七

○宮本 伯夫 (昭9)

凌泳会も益々御発展の趣、大慶に存じます。

小生至って頑健です。さて当日は、学三及二六回生の紫竹会の方の世話もありますので、凌泳会の総会の方には出席致しますが、残念ながら凌泳会の方には出席出来ません。

尚、当日 午後二時から、京都に行かねばならない用件があります。先輩の方々、及皆様に宜しくお伝え下さい。

○板野亀八郎 (昭9)

71年心筋梗塞を患って以来やめたもの、煙草とGOLF、それと夕刻からのパーティーの類。但し一見頗る元氣。又、自身でも現状を出来るだけ持続したいと思っています。

凌泳会も欠席ばかりで相済みません。皆様の御健斗を祈ります。

○池谷 俊一 (昭10)

川西と浜松で生活している。浜松へは月末から月初に行っている。大阪に不在の時も多い。

○本間孝之助 (昭10)

昭和10年、校門を去って43年、今は完全に丘に上った河童と言います。会報に接し、昔を偲んで居ります。凌泳会会長、小山

賢之助先輩の労を感謝しています。どうぞ宜しく御伝え下さい。

○小池 三郎 (昭11)

御案内状ありがとうございました。

当日は、先約の別の会合があり、久し振りに母校に参上いたしたく思っておりますが、誠に残念です。

幸わい健康に恵まれておりますので、次の機会を得たいと思っております。小山会長を初め皆様によろしく。ご盛会を祈る。

○大野 整 (昭11)

残念ながら出席できませんが、会員のみなさんによろしくお伝えいたします。元氣であります。ご健斗を切に祈っています。

○高橋 徹 (昭13)

病氣入院中、腎不全にて人工透析中。

○太田 正元 (昭13)

先日、五月会で小山先輩に御会いした時、五月十三日は出席する予定と申しましたが、私共の会社の創立記念日の翌日で全社のゴルフ会があるため、欠席止むなきに至りました。あしからず御寛恕下さい。二つの会社を主催しているため中々多忙を極めております。皆様によろしく。

○山口 宗樹 (昭16)

会社の住所が変りました。

〒230 横浜市鶴見区大東町十二ー一

大日本塗料内 日塗エンジニアリング

今回の企画大変有難う存じました。

学部9回、中村市治氏から先日電話で五月十三日に何か水泳部

(凌泳)の企画はないものかとの問合せもありました。

○萩野 茂希 (昭18)

当日は残念ながら所用あり重なりますので欠席しますが近況はこの経済情勢の中で四苦八苦で、どうやら生きていく程度です。

思えばプールで同僚の人々と一緒に泳いでいた時が一番愉しく懐しく思えます。長男も今春神大(医)を卒業し、親子二代六甲台でお世話になりました。

○古川 富貴男 (昭18)

函館には、凌霜の人は二人しかいなく(私を含めて)いつも如水会と一緒に月一回総会をやっています。

六甲台の新緑が目にかびますが、こちらはまだ遠くの山の頂きに雪が見えます。皆様によろしく。

○富中 暁 (昭18)

昨秋、三井物産を定年退職。現在左記に勤務しています。

勤務先 国際協力懇話会

同住所 東京都港区西新橋一丁目四番一二号

長尾ビル六階 〒一〇五

TEL ○三ー五〇一ー八九八六

皆様によろしく。

○石川 七郎 (昭19)

皆頑張ってください。

当日、社用にて出席出来ず、残念です。

○君塚 英男 (昭19)

相変らず三菱商事に勤務。軽金属を扱っています。

一昨年病気をして水泳は出来なくなりました。

○井川 俊夫 (昭20)

昨年五十二年九月六日より大洋州支配人オーストラリアヤ会社々長を命ぜられ赴任中でございます。井川内代筆

○山内 利男 (昭20)

印度出張が多くて、日本には余り居ません。

○三宅 林 (昭22)

当日社用で出張しますので欠席させていただきます。三月より神戸勤務となりました。相変わらず営業部にて元気に務めています。御参加の皆様にくれぐれもよろしく、盛会を祈ります。

○武内信一郎 (昭23)

当日は四国出張の計画で残念ながら欠席させていただきます。諸先輩によりしくお伝え下さい。

○岡 庄一郎 (昭23)

ご無沙汰しております。総会当日は社内研修会に当り、休暇がとれず、残念ながら欠席させていただきます。母校水泳部の益々の発展を祈念します。

○北野 誠良 (昭25)

外地赴任中ですので欠席致します。

○鈴木 富夫 (昭25)

海運の大不況のためゴルフもろくにやれません。呑む方はボツボツという処です。皆様に宜しく。

○山本 幸雄 (昭27)

現在の会社に入って十二年、この間の転勤六回、住居移転八回

と浮草的稼業ですが海外事業部に昨年春転じてからは何とか東京におちつけそうです。凌氷の皆様には仲々お会いできませんが、元気でやっておりますので、他事ながらご休心下さい。

五月十三日には久しぶりに六甲台へ行き、旧友の方々とお会いしたく考えております。総会の成功を祈ります。

○石井 義章 (昭27)

良い部員入りましたか。昨年以上の活躍をお祈り致します。四月末日での出欠の返事知らせて下さい。凌霜会へ報告がありますので。OB・凌霜と以外に分けて学生何人

○今井 政一 (昭24専)

元気でやっています。先日も凌霜広島支部総会があり、七五周年記念に参加を誘われたのですが、ちょっと時間がとれず、失礼致します。皆様によりしく。

○天野 博行 (昭28B)

本年度より門真市におきまして石油再生販売業を創設致して居ります。

○今枝 一 (昭28B)

海運業という仕事の性格上、海外出張が多いのですが（年に二、三回）いつも水泳パンツとゴルフシューズを忘れずに持ち歩いています。昨夏もニューヨークで25mを13秒台で泳ぎました。諸先輩方によりしくお伝え下さい。

○佐藤 一夫（昭30J）

関西の田倉君が花のお江戸に出てきて一年数ヶ月、政策不況業種の一翼を担って金利逆ザヤ現象と格闘中です。思えば古林喜楽学長時代の水泳部を卒業したのは、ついこの前のことと思っていましたが正確に数えると、丸二三年になります。気持だけは若い積もりですが、若い女性にもてなくなったことで、現実を悟らされる今日この頃です。ご出席の諸先輩方によりしくお伝え下さい。

○溝口 汪（昭30E）

脱サラを志して早くも二年経過しましたが、仕事も軌動にのりつつあります。皆様の御健勝をお祈りします。

○田淵 五郎（昭30B）

盛況をお祈りします。御参集の皆様にも宜しく。業界相変らず不況ですが健康だけは維持して居ります。

○堂本 直正（昭30T）

八年七ヶ月、四国高松での生活も終り、昨年十月より再び大阪住い、四国在住中には、中村先輩（今治）、湯山先輩（高松）に可愛がって頂きました。当地に来てからお逢いした方々は、①佐藤氏（東京）②小原先輩（大阪豊松）③石井先輩（神戸）の順であります。皆々様今後ともよろしく。

○橋本 力（昭30T）

大学からずっと雨へ降りた所にある御影高校に勤めております。今年はずっと水泳から足を洗ってラグビー部の顧問をすることにしました。どおり巡り合せか知りませんが、恐しい石井先輩の御息が私のクラスに在籍しております。

○山口 仁郎（昭32B）

五月の連休には宇和海より足摺岬、室戸方面にクルージングの予定です。

○岡見 晴児（昭33J）

内では中高年、外では円高の圧力にめげず頑張っております。残念乍ら、近年、泳ぐ機会も減りましたが、テニスで体力維持をはかって居ります。全国大会御出席の皆様方によりしくお伝え下さい。

○北村 敏 (昭34 E)

野田君がアメリカ・カワサキより復職しました。当日は二人と
も行きます。

○栄川 泰介 (昭34 E)

中小企業多難の年で毎日雑用に追われている上、一昨年よりミ
ンダナオ島で工場を始めて、その方の用事で一年の $\frac{1}{3}$ は出張
し、今年もあまりプールには顔を出せないかも知れません。

○永野 一彦 (昭35 E)

多忙にまぎれ無沙汰申し上げ恐縮です。先日対米国輸入促進ミ
ッションのメンバーとして出張しましたが、日米間の認識の差異
に今更ながら危機感を深めた次第です。昔ならばヒョットすると
武器で一戦交えるかも知れない環境でしょう。今回の総会是非参
加したいのですが、仕事の先約あり皆様に宜しく。

○小郷 謙 (昭35 B)

健康に恵まれ元気にやっております。

○宇賀 史郎 (昭35 E)

仕事の関係で残念ながら欠席させて頂きます。御出席の先輩諸
氏によりしく御伝え下さい。

○米田 啓裕 (昭37 P)

小生はなんとか元気でやっております。
大学卒業後十六年も過ぎ、いっしょにプールで泳いだ人たちの
多くはどうしておられるのだろうと思っています。

○井上 隆史 (昭37 B)

ご無沙汰しております。仕事は空調関係の営業を担当しており
ますが、不況で苦労しております。水泳の方は、子供とプールへ
たまに行く位です。小学校六年生の息子には、次代の神大水泳部
の星となるべく仕込んでおり、今や25mまでが親の貫録を示せる
段階で200mでは、小生の大学時代の記録より良い記録を出してい
ます。最近の受験地獄ではそろそろ勉強もさせないと神大の入学
もむつかしいかも知れないし……楽しみと苦労は多いものです。

○萩原 武 (昭37 T)

此度は石井幹事長ならびに主務および現役諸兄に全国大会の準
備方、大変御苦労を御掛けし、心から御礼申し上げます。姫路に
在って御世話らしい事は何も出来ず、心苦しく存じております。水
泳部、凌泳会がこれを機会に一段と発展します事を心から念じて
います。

○高岡 保宏 (昭37 P)

拜啓ごぶさたしております。

○林 莊八郎 (昭38E)

現在ブラジルのサンパウロ市にいます。あと四年位ブラジルに
いる予定という事です。

○藤岡 治男 (昭38P)

今年も参加しなかったのですが、仕事の都合で欠席します。中
学校の水泳部もシーズンしました。学生諸君の健闘を祈ります。

○丸山 卓也 (昭38T)

毎年ブールには親しんでいます。多忙につき欠席に失礼致しま
す。今年の三商大は東京ですか。頑張ってください。皆様によろし
く。

○鈴木 正弥 (昭39E)

最近、近くのゴルフコースのメンバーになり毎週末ゴルフを、
enjoy しています。まだ100を切る程度ですが、80台に何とか
年内に入りたいと思っています。家族は三女が一月に生まれ五人
となりにぎやかなものです。毎年、凌泳会総会に欠席しており残
念です。お集りの皆さんによりしくお伝え下さい。

○小越 信昭 (昭43T)

出席するつもりでしたが、仕事の都合でどうしても不可能とな
りました。ご出席の皆様によりしくお伝え下さい。

○手嶋 忠之 (昭41S)

現役時代はフリーだけしか泳いでいなかったのですが、現在、
メドレーを練習しております。皆様、本年も益々活躍して下さい。

○真喜志好一 (昭41T)

五十一年四月、沖繩開発庁を辞し、小さな設計事務所を自営し
ております。永らく音信不通で申し訳ありません。住いも変りま
した。今日五月五日遊びに出たら珍しく深い霧がかかり六甲台の
ブールの霧を懐しく思い出しました。現役諸氏、OB諸氏の御健
斗と御健康をお祈り致します。

○阿部 洋三 (昭42T)

相も変わらず週三回は水泳し、いまだにBosonの夢を追ってい
ます。ただ最近、不景気の割には、仕事がいそがしく、もう一
つ調子が出ない状況です。三月末で100バタをやって、1分14秒台
という有様でした。

○宮部 高博 (昭42L)

水が恋しくなる頃ですね。小生は海外出張の為、凌泳会の全国大会は欠席致します。経済界の不況の為にしょうか、毎日が多忙です。プールできた体を資本に何とかやっています。今シーズンの部員諸兄の御活躍を期待しております。

○岡本 優 (昭49 T)

只今、独身貴族。もうそろそろ捜さなくてはと思っているのですが……五月の連休は立山でスキーをやっております。皆様方によろしく。

○川本 典子 (昭51 T)

料理の小冊子の編集をしています。みなさまの御活躍を期待しています。がんばって下さい。

○中西 康之 (昭52 T)

会社での職制が変わりましたので、今後は裏記の係あて発送されたし。五月十三日は出勤のため欠席させていただきます。また練習(プールでの)が始まりましたら、お金をたっぷり持って、遊びに行きます。

○浜西美智子 (昭52 P)

四月から、国鉄新長田駅前の新長田勤労市民センターに勤務し

ています。週三日、水、金、土曜日九・三〇/四・〇〇までおります。近くにお寄りのときは、ちょっと足をのばして下さい。

○栗野 正子 (昭53 S)

会社勤めにも、だいぶ慣れてきました。毎日大学での勉強不足を思い知らされています。そろそろ六甲台プールにも水しぶきがあがる頃ですね。寒さにめげずにがんばって下さい。今年もまた続々と新記録が生まれるのを期待しています。

○木下 修一 (昭53 P)

今年も勉強で忙しいのであまり練習に参加できませんが、練習する時には、いっしょけんめいやりますので、どうぞよろしく。

○大林 良知 (新M13)

五月十六日にテストがありますので欠席します。テストがすんだら泳ぎに行きますのでよろしく願います。

○阿部 誠次 (昭53 J)

皆さん、お元気ですか。私は今会社で現場実習をしております。忙しくて十三日には出席できません。皆さんの健闘を期待しております。

○酒井 正人 (昭53A)

学生から社会人、この避けることのできない運命を、身にしみ
て感じている今日このごろです。毎日毎日が緊張の連続です。帰
りの遅くなる事も幾度もあります。暗い夜道を一人とぼとぼと帰
る時、水泳部での生活をなつかしみます。みんな頑張ろう！

○平野 輝雄 (昭53P)

勤め出して朝六時三十分に起床。七時二十分には家を出ていま
す。ほとんど朝食べないので三時間目(十時二十分)が始まる頃
になると、おなかがすいて、子どもの前で毎日「腹がへった、腹
がへった、めし食べたい」と言っています。子ども(女の子)の
尻をさわってよろこんでいます。総会には少しおくれると思いま
すが、出るつもりなのでよろしく。

○平石 康 (昭53P)

なんととっても眠たいのひとことだ。自由な時間を有意義につ
かってほしい。

月見の宴案内状返信より

○山田 幸男 (特)

皆様のご健勝をお慶び申しあげます。去年は、小生司法試験の
採点に追われどろして、失礼いたしました。お許しくださいます
ように。月見の宴にて祥眉いたしたく存じます。

○田口 寛治 (特)

大変な役を仰せつかりながら何のお役にも立てず心苦しく思っ
ています。この機会にご辞退させていただきたいと存じます。皆
さんでご相談下さったら幸甚です。

○白山源三郎 (大10高)

高令と云ってよい年になって来たが、時に泳いで楽しんで居る。
御蔭で極めて健康です。

○溝口 卓郎 (大13高)

好戦續お芽出とう。但し関西インカレ二部へ転落は残念。あれ
程ノメリ込んで居た水泳を離れて十数年。それでも水に縁のある
魚釣に最近打込んで居る。

○木村 芳雄 (大15高)

一度も凌泳会の会合に出席出来ず残念です。何やかや用事があって仲々タイミングが合わないのです。大正十五年と言えば最古参の部に属しますのでどうしても一回ぐらい顔を出したいものです。

○植木 実就 (昭6高)

海の近くに住んでいるので年に二・三回は水に入っています。独り水に身体を浮かせて昔、上筒井のプールで泳いだ時の事を思い出したりしています。皆様の御健康と御発展をお祈り致します。

○三吉 吉郎 (昭6高)

体調は減によりしく、元気に海で泳いでいます。遠くて仲々皆様と一緒に泳げないのが残念です。諸兄に宜しく。

○山田 常雄 (昭7)

今夏の成績、殊に三商大、市大戦に活躍御目出とうございます。一度も応援にいけなかつた事をお詫びします。これでは副会長としての職責は果せません。そこで前にも申し上げたのでありますが、もっと世代の若い人を選任して副会長は交替して頂きたいと思ひます。来年の総会までにお考え下さい。ピールのアワがブルサイドに溢れる盛會を祈ります。

○草野 嘉一 (昭7)

今年は五月から七月にかけて四十七日間家内と北歐四ヶ国(Denmark, Norway, Sweden, Finland)の旅を楽しんで参りました。御蔭様で元気ですから月見の宴に御出席の諸兄に宜ろしく御申し伝へ下さい。

○熊野 利夫 (昭8)

昨年、健康に一寸疑問あつたので爾来各方面へ御無沙汰している。別に活動は何もしていないが疑問解消したらしい。もう少し自重する。

○小池 三郎 (昭11)

相変わらず元気にしております。戦績良好の趣大慶に存じます。このたび月見の宴都合により参加できません。ご盛會を祈る。

○太田 正元 (昭13)

東京は両極、柳橋の近くで前職の関係会社で相変わらず会社関係の仕事をしています。先般は先輩小山さんの神戸「凌泳会の歴史」大変面白く拝読、小山さんとは、神戸の同窓会七日会で時々御目にかかっています。月見の宴も懐しいのですが丁度名古屋出張中にて失礼申します。

○大内 義仁 (昭14)

月見の宴ご案内いただき有難とう。都合で欠席しますが、盛会を祈ります。先日の当地での国公立戦ご苦労さんでした。戦績によれば三商大戦、市大戦何れも勝たれた由、往年を想起して気よくしています。

○富中 暁 (昭18)

相変らず最寄りのヘルス・クラブ・プールで週のうち五日は泳いでいます。御蔭で体調は良好です。皆様によりしく御鳳声下さる。

○古川富貴男 (昭18)

北海道の一角で元気に頑張っております。函館は北海道では一年中を過し、一番住みよい処のようです。

先日、観光旅行で当地へ来られた大内〇〇〇に久方ぶりにお会いしました。皆さんによりしく。

○君塚 英男 (昭19)

二年程前、ネフローゼをやり、泳ぐ事はムリな様です。海外勤務中でもその所々の名所で泳いでたのしんだのですが、ジャマイカのモンテイゴベイで泳いだのが、泳ぎおさめになりそうです。

○三宅 林 (昭22)

本年初より兵庫の方へ転勤となりました。

○岡 庄一郎 (昭23)

本年度の輝かしい戦績およろこび申し上げます。九月十五日はあいにく所用のため欠席させて頂きます。出席者の皆さんによりしく。

○山越 重義 (昭23)

構造不況業種の合せん業界で大変苦勞しております。今回も出席出来ず残念です。水泳部で鍛えたフアイトで頑張っています。

○今井 政一 (昭24專)

諸兄姉の御健斗慶賀に存じ上げます。都合に依り失礼致します。御参集の皆様宜敷くお伝え下さいませ。

○中崎日出男 (昭24)

本社に転勤となりました。家族は藤沢に残して豊中のマンション住いです。九月十五日は東京で用事がありますので欠席致します。

○鈴木 富夫 (昭25)

海外出張のため残念乍ら欠席です。石井氏はじめ皆様によろしく。相変らず飲んでいますが健康です。

○石井 義章 (昭27)

五月の開学記念式典で多数のOBの方にお会いしたのが、つい先日の様に思いますのに、早やシーズンも終り、月見の宴との事……。現役諸君御苦勞様でした。プールサイドに顔を出さず申訳ありません。来シーズンも頑張ってください。月見の宴でOB、現役の皆様とお会いするのを楽しみにしております。

○山本 幸雄 (昭27)

七月初めより約一ヶ月東南アジア各国に出張しておりました。現職に転じてからも多忙な日を送っておりますが、体だけは相も変らず健康です。これも学生時代水泳部でシボられた賜ものでしょう。残念ながら月見の宴には出席できませんが、宴の盛會と併せて諸兄のご健祥を祈ります。近く海外駐在になるかもしれません。

○今枝 一 (昭28B)

一度皆様にお会いしたいと思いつつ、忙しすぎてその機を失っています。今回残念乍ら、丁度今日(四日)から約三週間海外出張の為欠席させていただきます。諸先輩の現役諸兄によ

ろしくお伝え下さい。

○溝口 汪 (昭30B)

出張中のため返事が遅れました。出席の皆様によろしくお伝え下さい。

○田淵 五郎 (昭30B)

今年の日程消化、御苦勞様。十五日当日御参集の諸先輩に宜しく。

○佐藤 一夫 (昭30J)

社用のため欠席させていただきます。ご出席の諸先輩によろしくお伝え下さい。

○堂本 直正 (昭30T)

社用と私用のチャンポンにて九月十四日在東京。夜行寝台特急瀬戸号にて高松へ移動し九月十五日、十六日と高松に滞在。よって勝手ながら欠席させていただきます。皆様によろしく。

○富岡 道雄 (昭31B)

せがれが大変お世話になっております。一度出席しなければと思っておりますが日程の重なり今回も出席出来なくて申訳あり

ません。先輩各位、現役部員の皆さんによりしくお伝え下さい。

○高橋 靖周 (昭33E)

前略、卒業して今年で丁度二十年になりますが、卒業時は水泳のお蔭で六十Kgであった体重が今では七十八Kgになっています。年に一度位、子供達と海水浴に行く程ですのでもやむをえないのかも知れませんがどりにか元気でやっております。ご盛会を祈念いたします。

○前田 修 (昭34S)

水泳部の最も近くに居りながらなかなか行く時間がなくて申しわけないと思っております。本年は豚児(女兒)を全国優勝させたので来年は神戸大水泳部女子の皆さんにも少しがんばってもらえるようにお手伝いしたいと考えます。

○水野 一彦 (昭35E)

業務多忙にかまけて現役の方には御無沙汰して申し訳ないと思っております。事実プールで泳ぐ機会なく子供をつれて海水浴に行つてウサを晴らしています。健闘を祈ります。

○野田 浩志 (昭36B)

八月一杯はブラジル(当地では冬)そして今日九月十五日カナ

ダへ出発合宿に参加しようと思気込んでいたのですが夏は来ませんでした。出席は皆様によろしく。

○酒井 孝栄 (昭36E)

戦績の立派に感心しています。一層の御活躍を祈って居ります。(近況)名古屋に住んで一年余、すっかり当地地区に慣れました。

○井上 隆史 (昭37B)

六月三十日、十十三回の東京在住の凌泳会を開催し、久し振りに懇談しました。先輩の話題やら、水球植中コーチ、姫路ブルー、赤痢事件、六甲ハイツの覗き等々、深夜までの歓談でした。健康維持策としてのゴルフの話では、荒井が一番うまく、七十台でラウンドすること、後続の話なし。子供の話では、水泳部で兄弟選手はいたけれど(丸山・井上)そろそろ親子選手が出てきて良いのではないかという話になり、そのためには、神大水泳部に馴染ませる要有。五十四年の三商大は東京なので子供連れで是非出席することになった。その際、OBのリレーの他にジュニアのリレーもやろうとなったので幹事は、他校とも相談願度。出席者 山田、荒井、鈴木、鈴木、前田、滝沢、樋口、阿部、井上、武政でした。

○高岡 保宏 (昭37P)

前略、体育大会を数日後にひかえて準備をする日にあたっているため、残念ですが欠席させていただきます。諸先輩方よろしく。

○柳本 正雄 (昭37B)

残暑御見舞申し上げます。毎回ご案内頂きますが、なかなか皆様と歓談することが出来ず残念です。皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

○米田 啓祐 (昭37P)

案内ありがとうございました。都合で参加はできませんが……先日初めて但馬地方の水泳記録会というものがありません。二十歳から三十九歳までという部門があったので私もまったくひさしぶりに泳ぐことにしました。五十メートル自由型です。二十五メートルを過ぎてからは、ほとんど浮いているような状態でした。三十三秒ちようどで泳いでいました。

○萩原 武 (昭37T)

拜復、長かった夏も、今は名残りの暑さ、それにしても、今年の夏は参りました。そろそろガタが来た様です。皆様におかれては赫々たる戦果を打ち立てられ同慶の至りです。今年は大商大・市大戦と十分な応援ができず申し訳けなく思っています。月見宴もありながら会社の業務と重なり立場上げにゆきません。皆様よろしく。

○浅間 啓介 (昭37E)

今年の二月から名古屋勤務となりました。酒井さんも一足先にこちらにいられていて、子供が同じ小学校という事です。皆様によろしく。

○平岡 昭明 (昭38P)

勤務校は新設二年目で、部活動も活発になりました。小生、又野球部顧問となり、夏は忙しくなりました。近くに居りながら顔を出せないことをお詫びします。近い将来プールが出来ますので、水泳部を作り優秀な選手を神戸へ送りたいと思っております。

○武政 英幸 (昭39B)

二週間の海外出張中に「月見の宴」のご案内を頂戴していただきました。東京転動後はどうしても六甲台プールに足が向きません。(遠い)そろそろ大阪へ転動しないものかと期待していますが、宮仕えの身、予測できません。SEASON OFF を現役の皆さん有意義に活用して下さい。

○鈴木 正弥 (昭39E)

東京にきてから二年たちました。毎回水泳部より御案内を頂きますが、いつも欠席ですみません。先日は東京OB有志集い歓談しましたが、三十七年、井上、山田、三十八年、荒井、鈴木、三

十九年、武政、鈴木、四十年、前田、三十五年、樋口、阿部君が集まりました。

学生時代の良き思い出は素晴らしいものです。御参集の皆様によりしくお伝えください。

敬 具

○山本忠比古 (昭39 T)

自動車用等速ボールジョイント工場へ転任致しました。

○堤 莊祐 (昭39 P)

今夏、久しぶりに福祉キャンプ(児童相談所に相談に來所した情緒障害児の母子キャンプ)に参加させられ、水泳指導のパートナーを受け持ち、泳ぐ機会を得ました。体力のおとろえを痛感した次第です。毎年、今年こそはと泳ぎへの決意を持つのですが、いざシーズンになると何やかやで終わってしまいます。現役諸君の健闘立派ですね。来シーズンも頑張ってください。月見の宴当日、所用により九州へ行っておりますので、残念ながら出席出来ません。御出席の皆様方によりしくお伝え下さい。

○中畑 勝明 (昭41 B)

前略、いつも「凌泳、案内等送って頂きありがとうございます。皆さん方の御活躍嬉しく拝見しています。来シーズンのより一層の活躍を期待します。今年の夏は猛暑のせいか例年になく良く泳

ぎました。近くに室内プールがありますので、これからも子供のコーチを兼ね、また健康維持のためにも泳ごうと考えています。当日は残念ながら欠席致します。

御出席の皆様によりしくお伝え下さい。

○木下 雅浩 (昭41 B)

八月二十七日、大阪商社対抗の水泳競技会(第二十回)があった。久しぶりでバックで出場したが、各社一人づつエントリのところ十七回生玉置君(三菱商事)、十六回生山内君(トーマン)、水泳部は途中退部)と一緒に競争するめぐり合わせとなった。十数年振りて六甲プールで泳いでいる錯覚にとらわれた。

○山口 幸郎 (昭41 T)

御無沙汰しています。今夏の泳ぎは、海、湖、プール各一回づつでありました。諸兄の皆様によりしく。

○手嶋 忠之 (昭41 S)

本年もなかなかの御活躍うれしく思います。月見の宴には所用で出席することが出来ませんが、皆様によりしく御伝え下さい。今年も毎日曜日プールに行っております。最近個人メドレーを練習しております。

○小越 信昭 (昭43 T)

現在、労働組合の委員長として非常に忙しい毎日を送っています。今夏は例年になく水に親しみ、真黒になりました。月見の宴には残念ながら出店できません。先輩諸氏によりしくお伝え下さ

す。

○宮部 高博 (昭42 L)

今年の六月から近所のスイミングクラブに入りました。先日(九月二―三日)千葉県民大会の三十才以上の部に出場しましたが、残念乍ら決勝八位でした。(種目五十m平泳、記録三十九秒九)来年は得意の自由型で二十九秒突破を目標に練習しています。又十月十日の体育の日はクラブ対抗戦が代々木の室内プールであり、それには、三十五才―三十九才の部で二十五mと五十mの自由型に出場する予定です。カップ生活から抜け切れず、又舞い戻っています。諸先輩によりしくお伝え下さい。 以上

○阿部 洋三 (昭42 T)

昨年の十月頃から半年間仕事の都合であまり泳げず、今年は百mバタでやっと一分十五秒を切る程度です。「寄る年波には勝てないか?」とも思っていて、ウエイトトレーニングなどに取組んでパワーアップをはかっている状況です。水泳は、パワーとスタミナと技術の三拍子がそろえば、万全ですが、今やパワーとスタミナ

は落ちる一方で技術のみに期待をかけているのが現状です。現役

諸君の皆様には「二十二―二十三才は決して年寄ではない。」ということを銘記されて水泳に研鑽して下さい。

○熊岡 禎二 (昭46 T)

今夏は、二才になる娘を近所のプールにつれてゆき、水泳を教えています。月見の宴の頃には、次の子供が誕生する予定であるので残念ながら出席できません。皆様によりしく。

○井上与志男 (昭47 J)

今年は一度もプールへ足を運ばず申し訳なく思っています。仕事も忙しくなり私も元気にやっております。戦績を見て非常に頼もしく思います。今後も大いに頑張ってください。

○家本 博一 (昭49 E)

大学では、東欧型社会主義経済論を専攻しております。又副業では相変らず、不動産鑑定や再開発の業務をしております。みなによりしく。

○佐敷 定雄 (昭49 A)

短距離なら現役時代と変わらぬ。私まだまだ頑張っております。

○藤森 一男 (昭51T)

昭和五十三年はほとんど泳がず終ってしまった。なれぬ仕事で非常に疲れて休みの日はぐったりしていた。来年は出来るかぎり元氣を出して泳ぎ回ろりと思う。香住・竹野方面へ一度だけ泳ぎに行ったが、水が澄んでたいへんきれいでした。

○田淵 耕 (昭51B)

東京へ来た時は是非知らせて下さい。夜の新宿を案内します。

○北川 敏行 (昭51J)

会社で水泳部のマネージャーをやっています。ただプールが八王子と東京の西端にあるため、日曜日にはぶらりと泳ぎに行けないのが悩みの一つです。もっぱら千葉の海でゆらりゆらりとただよっているのが楽しみとなっています。

現役諸君は昨年と同様に頑張っておられる模様で喜んでおります。

○上田 敏彦 (昭51E)

元氣にやっています。

○山口 叔子 (昭51P)

今年の試合に一度も行けず心苦しく思っています。皆様お変わ

りございませんでしょうか？ 月見の宴にはぜひうかがわせていただきます。

○檀上 明夫 (昭52J)

スゴイノ スゴイノ みなさんが、広島に來られた時「ワァー」って思いました。かく言う私メはこの夏、数える程泳いだだけ。時々水泳パンツを出しては「うん、まだはけるノ」なんてつまらないことを感心し、安心し、自己満足しているのです。同期の丸末君や中西君はもうだめじゃないかなワッハッハノ なんて言っ

て秋を迎えようとしています。また来シーズン頑張ってくださいノ

○中西 康之 (昭52T)

皆様方によろしく。

○後藤 信人 (昭54B)

大学に入って五年目の夏休み、初めてのんびりと故郷沼津で過ごすことができました。毎日ラジオとゴザをかかえて裏の海に出かけ目の保養をとりました。八月六日には、高松時代の水泳部の仲間三人とスポーツ祭にめぐりこみをかけ、一般男子の部で全員優勝を飾りました。現役時代には、もらえなかった賞状と金めっきメダルを前にして、美酒に酔った一日でした。来年度は二部優勝して、一部復帰せよ。

o 酒井 正人 (昭53A)

毎日毎日、暖房車で走り回っています。酒屋さんへ行って最初の一言「まいど、こんにちば サントリーです」汗を流しながら、泳ぎたい、泳ぎたいと思ひながらの毎日です。日曜は、プールへ直行、ついでにデート、忙しい毎日です。あまり試合見にいけなくて、すまん。

o 平石 康 (昭53P)

一度も、試合の応援に行けなくてゴメン。予想以上の健闘リョウやっただけと言いたい。神大水泳部の黄金期は、これからの様でたのもしい次第だ。

こちらはあいかわらず子供に負けず真つ黒でがんばっている。ただ、ひとつの悩みは、腹がでてきたこと。

o 栗野 正子 (昭53S)

今年の暑さは格別でしたが、それだけにいっそう水が恋しく思われました。しかし残念ながら機会に恵まれず、水につかることができたのは、たった二回きりでした。今年の戦績を拝見しましたが、女子の方々もがんばっておられるのを見て安心しました。月見の宴では活躍ぶりを聞かせていただくのを楽しみにしております。

昭和53年度凌泳会費寄付金醸出者御芳名

(本年度会費は四千元。それ以上の額は) 寄付金とさせて頂きました。

御氏名	会費・寄付金	御氏名	会費・寄付金	御氏名	会費・寄付金
白山源三郎	一万円	太田	正元 四千元	小川	直 五千元
木村 芳雄	一万円	大内	義仁 四千元	岡	庄一郎 四千元
植木 実就	五千元	中村	市治 一万五千元	小西	信次 四千元
小山賢之助	一万円	吉野	栄 四千元	牛島	修 四千元
草野 嘉一	二千元	森	芳夫 四千元	中崎	日出男 四千元
山田 常雄	一万円	山口	宗樹 四千元	中川	正敏 四千元
熊野 利夫	五千元	前田	寿 五千元	石井	義章 一万
板野亀八郎	三千元	平井	洋 五千元	山本	幸雄 五千元
宮本 伯夫	四千元	稲木	俊男 四千元	中井	三郎 四千元
(以上会費免除者に つき全額寄付金)		尾上	信三 四千元	兵川	広海 四千元
本間孝之助	四千元	岡本	忠男 四千元	関山	道雄 四千元
桑川 義男	四千元	熊野	泰己 四千元	煎塚	昌宏 四千元
古賀 克己	四千元	上田	宇一 四千元	小原	祥男 四千元
小池 三郎	四千元	富中	暁 四千元	遠山	節朗 四千元
大野 整	四千元	君塚	英男 四千元	岡沢	幹夫 四千元
野村 弘	四千元	稲垣	信夫 四千元	田淵	五郎 四千元
山村 宮男	四千元	井川	俊夫 二千五百円	榊原	修造 五千元

御氏名 会費・寄付金	御氏名 会費・寄付金	御氏名 会費・寄付金	御氏名 会費・寄付金
佐藤 一夫 四千元	萩原 武 五千元	菊田 修三 四千元	井上 央 四千元
堂本 直正 五千元	竹元 忠彬 四千元	以西 吉一 四千元	阿部 誠次 四千元
辻村 亮介 四千元	高岡 保宏 四千元	岩切 博 四千元	平野 輝雄 九千元
橋本 力 五千元	米田 啓祐 四千元	佐敷 定雄 四千元	高木 史子 四千元
富岡 道雄 一万元	平岡 昭朗 四千元	長谷川 健 五千元	
松田 司朗 八千元	藤岡 治男 四千元	印南 修三 四千元	
山口 仁郎 九千元	林 莊八郎 四千元	藤森 一男 四千元	
前田 宗雄 一万元	武政 英幸 四千元	松山 玄彦 四千元	
石本 茂樹 四千元	鈴木 正弥 五千元	北川 敏行 四千元	
細田 忠雄 四千元	滝沢 章三 四千元	細谷 明夫 四千元	
岡見 晴児 四千元	丸山 昱也 五千元	川本 典子 四千元	
阿部 雅 四千元	前田 和秀 四千元	丸末 一之 四千元	
岡村 司 四千元	真喜志好一 四千元	佐藤 弘之 一万元	
北村 敏 四千元	手嶋 忠之 四千元	小林 正文 五千元	
栄川 泰介 四千元	樋口 周平 四千元	中西 康之 四千元	
前田 修 四千元	宮部 高博 四千元	伊藤 良一 四千元	
永野 一彦 四千元	由佐 禎男 四千元	浦本 幸二 四千元	
黒田 英雄 四千元	阿部 洋三 四千元	浜西美智子 四千元	
原 謙三 四千元	鈴木 俊彦 四千元	平石 康 五千元	
上村 久治 四千元	熊岡 禎二 四千元	後藤 信人 四千元	
井上 隆史 四千元	木村多加緒 九千元	酒井 正人 六千元	
		塩浜 英二 四千元	

御氏名 会費・寄付金	御氏名 会費・寄付金	御氏名 会費・寄付金
井上 央 四千元	木下 修一 四千元	栗野 正子 四千元
阿部 誠次 四千元	村田 邦夫 五千元	
平野 輝雄 九千元	高木 史子 四千元	

(敬称略させて頂きました)

以上合計 五八〇、五〇〇円

一一一名

会費合計 四四六、五〇〇円

寄付金合計 一三四、〇〇〇円



現役部員寄稿

私のクラブ感

主将 杉山和弘

水泳を初めてかれこれ十年もたつ。中学の時のクラブというと学校体育の水泳に少し毛のはえたものだった。ゆえに本格的に水泳を始めたのは高校に入ってからだ。またこの時は初めて水泳のおもしろさ、楽しさがわかった。入った高校（大阪府立高津高校）の水泳部が実に良かったからであろうと思う。私の高校の水泳部のシステムというと、卒業した大学生が監督しコーチする。よって練習を立てるのもキャプテンじゃなくコーチがたてる。部員はただその練習についていくのみで練習メニューには口出しはできない。また口出ししなかった。何故かというところ、練習中が水泳というものを必死で勉強していたし、試合に「○○」が出るように練習計画をたんにねっていったのを私たちは知っていたからだ。だから私たちはとにかくこの先輩たちのいうことを聞けば必ず「○○」が出せると信じていた。ついていけば間違いないんだという気持ちしかなくとまどいなど全く持たなかった。練習というものはそれはきついもので一日六千〜八千mで、日曜などの休日も休みなしでおまけに試験期間

中でも休みはなかった。このようにきつい練習に耐えるためには何が必要か。それは絶対にクラブの和である。ほとんどの部員は練習がつらくて一度や二度やめようと思ったが、その節みんなではげましかって切り抜けてきた。このようなクラブでは本当に好きなものでないと残っていかない。毎年最終的には一学年四人位になってしまふ。しかしこの四人のつながりというのは、自分たちは他の者よりなんほかきつい練習に耐えてきたという自信が何よりも強いつながりとなった。これが本当のクラブの横のつながりであると思う。また私の高校のクラブでは卒業生がコーチするので縦のつながりというのかもしれないもので、現在では縦の関係が強すぎるというより上の力が大きすぎるのでクラブが押しつぶされそうになっている。私自身大学のクラブも高校のクラブと同じように考えても良いのではないかと思う。クラブ活動に大学の、高校のというふうに区別されるべきではないと思う。近頃どこの大学でも（私の大学も含めて）このような傾向がきている。大学のクラブだからレジャー代わりとか、水泳の場合泳げないから泳げるようになりたいとか考えて入ってくる者が多い。このような考えは大嫌いだ。泳げないからダメというのではなく、ただ泳げるようになりたいだけじゃなく、もう一歩進んで水泳というものとことんのめり込んでバカになってやろうという気がほしい。ゆえに本当に好きでないものしか私は望まない。そのため小敷になっても仕方がないと思っている。又バカにならせるため私たちが上級生は努力しなければならぬのだが。こ

のように全員がバカにならなければこれ程すばらしいクラブ又強いクラブはできないのではないだろうかと思う。ある一つの目標に向かって何も考えないでつっ込んでいくという精神をクラブ員全員がもってほしい。このようなクラブが私の理想としているクラブである。

県春季水泳大会観戦記

2 回生 富 岡 洋 三

私は水球をしにきたのではありません。競泳をしにきたのです。といっても仕方がない。神大水泳部にはいったからには四年間水球をしなければならぬのである。水泳の練習が終わり、やれやれというところでゴールをひっぱりだしてきて水球の練習。しんどいやら寒いやらでどうにもならない。その水球の今シーズン初の公式試合が六月四日須磨高校で行なわれた。

一年の山本、東、富岡は前日白子の下宿に泊って翌朝六時に起床。あいにくの天候で服を着ていてもふるえあがるほどであった。さて着いた須磨高は25mのわりあい古いプール。しかし、わが六甲台プールに比べると水温はかなり高く、あの雨の降る肌寒い天気でも水につかることができた。下馬評では岡山からやってきた関西高校の優勝がたいということであった。

さてわが神大はまず地元須磨高と第五試合で対戦した。まだルーラさえもはっきりわからぬ我々一年ではあったが、泳力、技術ともに差が歴然とした試合なので安心して先輩の試合を観戦した。練習試合ではフリーからことごとくキーパーの正面にあてた山本さんも一クオーターで二つのゴールをきめ、亀井さんもキーパーでよく頭張り、他の選手も動きはよかつたようだ。結局18対1で思ったほどに差はあかなかつたがまずは楽勝。そして午後の第七試合ではいよいよ黒人チームと見まがうというほどに日焼けした水球専門高校関西と準決勝で対戦することになった。前々から先輩より関西の強さを話に聞いていたが、いざ始まってみると意外に善戦、好ゲームを繰り広げた。しかしそれでも17オーターを終わってみれば7対0、実力の差は明らかであった。それでも慈幸さん以下六名の選手は力の限り戦い、第27オーターでは遂に中尾さんが初得点。結局23対3で負けたがよく頑張った。関西のおそらくOBと思われる連中の技術はすばらしいもので次々と技がくり出され、我々はただため息をつくだけであった。決勝では阪急SS対関西となり、我々も必死で阪急を応援したのだが、あの強者ぞろいの阪急SSでも関西のOBを中心とするメンバーには歯がたたなかつた。

全部で8クオーター40分間も泳ぎっぱなしで奮戦した諸先輩方のファイトにはただ敬服するのみである。我々一年も早く先輩に追いつけるように頑張らねばとつくづく感じた次第である。

関西ポロリーグ観戦記

2 回 生 後 藤 芳 光

六月十八日、日曜日、真夏を思わせる強い日差しに照りつけられたこの日、全国の海、川、プールで早くも多くの水の犠牲者が出たそうだが、大阪市大プールに於いてポロリーグ戦が行なわれた。準決勝は神大VS市大、立命館VS京大との対決となった。神大VS市大の試合、第一クォーター、たて続けに六点を取った（内訳を見ると、一分〇秒に土井さん、続く二十九秒中尾さん、五十六秒に杉山さん、二分三十秒再び中尾さん、三分五十二秒山本さん、四分四十九秒またまた中尾さん）。第一クォーターを見る限りシュート数七本、そのうちシュートミス一本と非常に調子よくスタートした。この間市大のシュートも二本あったがバックとキーパーの防御により得点を許していない。続く第二クォーター二点、第三クォーター二点、第四クォーター一点と神大が合計十一点を取った。しかし市大の反撃もあり第三クォーター二分五十九秒、ほぼ中央から山なりのロングシュートを受けキーパー亀井さんの必死の防御にもかかわらず得点を許してしまった。結局十一対一で神大が決勝に進出した。試合後印象に残った点は、アシスト藤幸さんによる土井さんのチップシュート、芝さん中尾さんの国維寮コンビによるハンドブックによるシュート、山本さんのバウンドシュートであった。

またこの試合に於いて目立ったシュートミスは山本さんの六本、土井さんの三本であった。とりわけノーマークになりやすい山本さんは八本シュートしているのでミスする率が七十五％と非常に高かった。

続く決勝は神大VS立命館の間で午後二時から行なわれた。この試合は第一クォーターを一对〇とリードしたのでひよっとしたらいけるのではないかとかなりの人が予想したが、キーパーの亀井さんは不気味さを感じたそう。結局この試合立命館の泳力、バス力など総合力が神大をかなり上回っていたので三対七という結果に終わった。今後の神大の課題としては泳力、バス力、特にハンドブック、シュート力をつけねばなるまいと思う。

合 宿 記

(第一日目(月))

一回生 Y (D班)

△一〇〇〇〇〇〇〇〇

経済学部前に一年生集合。フトン運び、宿舍の掃除をする。

△一一〇〇〇〇〇〇〇〇

ミーティングの予定を変更して各自昼食を食べ十二時半からミーティング。班分けて当然のごとく小生は初心者コースであるD班に入れられた。

△二・三〇▽

記録会がありいろいろな記録が出た。その後三千メートル程泳ぐ。そして夕食。以前から油っぽいおかずが多いと聞いていたが、やっぱり多かった。食欲あまり無し。夜、むし暑い。一回生は全員で（後藤氏は三回生についていったそうだが本当に彼は酒好きである）茶店で雑談。九時四十分宿舎に戻り十時消燈。このあと蚊との闘いが始まる。少し眠るとカユサで目がさめ結局程んど眠れず。

〔第二日目〕第四日目〕↓地獄の三日間 一回生 S (C班)

(早朝練習 六・三〇〜七・四五)

口の中には歯みがきの味が残り、目は塩素で痛く「なんでこんな早くから泳がなあかんのや」と思いながら泳ぐ。本当に朝食前の練習はつらいものだ。

(午前練習 九・三〇〜一二・〇〇)

早朝練習と午後練習の間にはさまれ、軽い練習で終わらざろうなどという甘い考えは通用せず、P・K・C・ヤインターなどを中心にしたかなりハードな練習だった。本当に昼食前の練習はつらいものだ。

(午後練習 二・三〇〜六・〇〇)

量的にも質的にもおぞましい内容の練習であった。しかしこういふ時にも各自個性を発揮し、全力で泳ぐ者（筆者）、陰険リースをする者（？君）、先輩の目を盗んで手を抜く者（その他多勢）など

などいろいろいた。本当に夕食前の練習はつらいものだ。

〔第五日目〕

一回生 Y (B班)

最後の日に記録会をやる者の気がしれんが、某氏のようにこの日に BEST を出す者の気がしれん。この最も疲労のたまった時に BEST を出すとはこの合宿期をどのように過したのであろうか？又某氏のようにまし（おぞましい言葉）で十秒も短縮するふとどき者もいたが、概して高校の合宿よりはましであったと思う。

兵庫インカレ観戦記

二回生 辻 陽子

本年度の兵庫インカレは、まだ体中が合宿疲れにとっぷりとつかり切っている七月九日に行なわれました。

同じ25メートルなのに六甲台プールからは想像もつかないほど澄み切った商船大プールの水 部員一同、思わず自己ベストを予想したものでした。

(男子の部観戦記)

// 打倒甲南//を相言葉に、また関西国公立三位入賞の踏み台にと、先日の京阪神戦とは雲泥の差のその意気込み。

予戦・決勝と次々と競技が行なわれましたが、何といっても印象

深いのは、杉山先輩の100フリーにおける昭和二十六年以来の神大タイ、58秒8という記録と、芝先輩の200バタフライ初の完泳で得点というそのガッツ、そして今年最大のホープ富岡くんの100、200ブレにおける歴代十傑入り、というところではないでしょうか。

特に杉山先輩は泳ぐ種目全て大会新という驚異的な強さで、
すが鉄人ノとみんなをうならせたのであります。

結果は残念ながら一点差で甲南に敗れ、悲願は果たされなかったわけですが、ベスト記録もたくさん出ましたし、タオルもたくさんもらえましたし、これなら関国で三位入賞いけそうだと秘そかに感じたものでした。

来年こそは悲願を果たし、アノ大会々長さんのハナをあかしてやるうではありませんかノ

(女子の部観戦記)

打倒武庫川を相言葉に(？)女子一同、疲れ切った腕で一生懸命水をかいたのですが、何といってもその練習と体格の差に圧倒され、やはり今年もダブルスコアで敗れてしまったのです。

しかし男子同様ベスト記録もたくさん出ましたし、なかなか満足してピヤホールに臨んだのであります。

P・S ピヤホールではみんなまで気持ちよくジョッキをあげ、その楽しい雰囲気の下戸の私はジュースで酔ってしまったのであります。

関西国公立体験記

三年 山 本 隆

(文面の都合により敬称は略させていただきます。)

八月十六日、関西国公立水上競技選手権大会最終日、前日の晴天とは違って変わって雲が一面に空をおおい、比較的過ごしやすい気候であった。前日神大は16点をあげ、三位の阪大を二点差と追い、上位三校の出場出来る全国国公立の望みをつないでいるのであった。前日は杉山、山本がそれぞれ七点、400Rではわずかに阪大をかわして二点を取っているが何といっても主将の慈幸が200平に予選失格したのは痛かった。それにひきかえ阪大は総合力にものを言わせて着実に得点を重ねていたのである。

いよいよ必勝を期して我ら神大は今日の最初のレース400MRに挑んだのであるが何と2秒差でもあろうにライバルの阪大に敗れたのである。これで差は三点と広がった。

前日の不利を延長したようなこのレースにさすがの神大の勇士たちも落胆の色は隠せなかった。

しかし、勝負は最後まで捨てるものではないと誓い合い、背水の陣をしいて阪大に立ち向かっていったのである。次は400M個人の決勝。わが敵の将北村は前日の200個メで敗れた府下の平井を下し、七点を獲得、差は十点。そして100、400自ではさらに十四点差と開いた

のである。この間、神大はエントリーなし。この絶望的な点差を残りの100バタ、背、平にかけた。この日の四番目のレース、100バタで山本は惜しくも二位、しかしながら阪大の平石は七位とはずれたのである。ここで予期せぬ五点の差が縮まった。その差は九点。次の100背で杉山は七点をあげ、その差は一気に二点となった。//いける//我らの目がぜん色めき立った。いよいよ平である。神大は慈幸と新鋭富岡で挑み、阪大をつき放すべく勝負をかけた。結果は慈幸は前日のうつぶんを晴らすべく三位に入り、四点獲得であるが、やはり富岡では肩の荷が重すぎたのであろうか、八位にしずんでしまった。このとき阪大は四、六位に入り、四点、二点差を死守したのである。プールサイドの阪大勢は沸きに沸いた。800Rを残すみの二点差はまさに必勝の点差である。

一方、二点差をつけられた神大はもはや自力優勝はない。800Rで神大が阪大に勝ち、しかもその間に一枚は入らなければ勝ちはないのだ。

にわかに風が雲を奪って、夏の空に戻った競技場でいよいよ最後のレース800Rが行なわれた。

各校の部員は最後の声援をすべく対面のスタート台に集結、その後ろにはそれぞれ自校の旗をもってかけまわる者たちもいた。まさに試合はクライマックスに達していた。

スタートと共に最後の望みをいだいて飛び込んだのは中尾である。第一泳者中尾は好タイムを出して阪大におくれながらも五位とし、

杉山にタッチした。さすがに杉山は二枚ぬいて三位にくい込んできたのである。しかし四位には阪大がいる。このままでは二点の差は縮まらない。神大と阪大の間にくい込んできてくれると期待をしていた神商大は大きくおかれていた阪大にせまって五位につけていたのは八コースの滋賀であった。第三泳者は慈幸である。//慈幸がんばれ//滋賀がんばれ//しかしその願いもむなしく滋賀は先行策だったのかここで大きくおくれ阪大のあとには何もいない。阪大の四位は確定的である。しかし三位を死守して帰ってきた慈幸は二位の京大にも二、三メートル差としてきたのである。神大は京大に勝つしか道が残されていないのだ。もはや他力ではない。自力で阪大をつき放すしかないのだ。ここで神大はアンカーの山本にすべてを託したのである。京大のアンカーは200自に優勝している藤川である。相手にとって不足はない。

このとき神大の部員は合宿の苦しみ、共に励まし合って苦しい練習に耐えてきたこと。あの四月頃の水の冷たさ、あの風呂の熱さ、などが頭をかすめたことだろう。

山本は前半から積極的にとばし、50Mで藤川を見た。100Mで藤川やヤリード、そして150Mで山本は藤川をわずかにかわしたのである。こんなことがあるだろうか。神大サイドはまさに騒然とした。150Mのターンのあと神大部員は山本についてプールサイドを走っていた。

//いけ、山本!!//反対側のプールサイドは京大部員が走っている。//いけ、藤川!!//京大として自校の名にかけてもここはゆずれない。

一方の阪大部員は全員棒立ちである。阪大にとって目の前におこっているシーンがまるで信じられないのであらう。まさに悪夢であった。まさか京大が神大に、しかも、藤川が負けようとしている。

ラスト25M、わずかに藤川がその差を縮めたかに見えた。ラスト10M山本リード、ラスト5M山本リードゴール!! // やった!! // やった!! // 杉山が叫んだ。慈幸が、中尾が叫んだ。山本はプールの中で大きく両手を上げてガッツポーズ。// やった!! // 神大勇士ははしやきまわった。阪大の女子部員が泣いている。神大の女子部員は笑っている。

関西インカレ観戦記

二年 寺尾紀子

時は八月四・五日、うだるような暑さの中、大阪工業大学で行われた関西インカレ。それはそれは大きな大会で、時間のかかる事、かかる事。だけど、恐しく速く泳ぐ方々の、素晴らしい泳ぎを見て、「ふーん」と感心させられ、とても良い勉強になりました。

男子の人達は、一部で泳ぐせいか、何か、も一つ気乗りしていらつしやらない風で、声援も余りとびませんでした。結局、決勝に個人で残られたのは、杉山先輩の、百メートル背泳のみでした。さすがの先輩も、決勝では惜しくも七位でした。男女共、〇点で完敗で

はありましたが、誰も気にしていないようで、次の試合、全国国立戦の方に、関心が置かれていくようでした。

ここで一つの根性物語(実話)。つん子の微熱をおしての二百メートルバタフライ。九人出場で、一人でも棄権すれば即決勝だったというレース。「途中で沈んだら助けに来てな」と言う一言を残してスタート台に立つ彼女。プールサイドで見守る私。無情に鳴り響くスタートのピストルの音。彼女は飛んだ。水しぶきが散り、舞う。後、三十メートル、二十メートル……あつ沈んだ。つん子のビクキップ。彼女の身替りとなって沈んだんだ。きつと……。泳ぎきった後の彼女の表情は、とても明るかった。(おしまい)

どんな試合でもベストを尽すのが、スポーツマンの義務であるという事を、考えさせられる試合でした。自分にとっては、とても有意義な試合だったと思います。そう、明日への活力源となるような。



全国国公立観戦記

二回生 富 岡 洋 三

関西国公立三位入賞の余勢をかって六位入賞を目ざす全国国公立水上競技大会が八月十一日より三日間に渡って広島大プールで行なわれた。けち、貧乏人ぞろいの我が神大水泳部は新幹線を使うことは許されず、試合前日なんと六時四十二分大阪発の電車に乗りこみ、六時間半もかけて、くたくたになりながらもなんとか広島についたのである。

宿で一休みしてから我々一行は廣大プールへ向かった。50 m ハコース公認プール、我々からすれば天国のようなプールである。

²⁰⁰m 足らずの調整を終えたあと一回生 C の 100 m Bu のタイムとり、彼は前日の練習 50 m Bu 31 秒 0 の好記録がでており、リレーメンバーとして期待がかけられていたのだが、前半はともかく折り返してからの 50 m は見るも無惨なバタフライとなりなんと 1 分 16 秒かけてゴールインしたのである。三回生の落胆はたいへんなものであったが本人の落胆よりはそれ以上であった。結局彼をバタフライで行かせ

るのは無理となったが、それでも 400 m H R の予戦は彼を Br に回すことにした。

夜、ミーティングを終えてからは自由、一回生は A がバチンコ、残りは喫茶店へと向かった。帰ってみると三回生 N 氏がすでに旅館に到着していた。彼は母校の応援のため甲子園球場へ行っていたのだが、なんと一回戦相手の失策によって勝利をおさめていたのであった。なおついでに一回生 B の母校も甲子園に出場していたのだが 18-0 とすばらしい大差で敗れ去っている。

十一日、六時三十分起床。朝食の後、一年生は場所とり。七時三十分より 1000 m 余りのアップ。プールがこむ前には終了し、競技が始まるまで他校の泳ぎを観戦。もっとも一回生 C・D の目はもっと遠うところへ行っていた。

十時より競技開始。400 m M R には神大のすべて 期待を集めた一回生 C が平泳でリレーに初登場。彼の調子はよくはなかったが一応つとめを果たし、決勝にも残った。初日は自由型と 200 m 各種目の予選。ここでは 200 個々の慈幸、200 Br の杉山、200 蝶の山本三氏が決勝に残った。他の部員も多くがベストを出し、上々のスタートであった。その夜の自由時間、一回生は A が麻雀。残りは喫茶店へと向かった。十二日は午前が予選、午後決勝。最初に 400 m M R の決勝。我が神大は大阪府大を抜いて三位入賞をめざすため、悩んだあげく一回生 C を泣く泣く Br からはずし、代りに中尾氏を入れて奮闘したが 0.4 秒差で敗れ四位となった。なお、このメドレーで慈幸氏は 1 分 17 秒をマ

1クしており、一回生Cは自分のだらしなさに責任を感じたのであった。また第一泳者杉山氏は正式計時1分8秒4という大記録を出し、インカレ標準記録を突破したのである。

この日の午後からは決勝200mIM慈幸六位、200mBa山本三位(賞状付) 200mBa杉山四位と健斗し、六位入賞に一步ずつ近づいていった。

この夜の自由時間、一回生は、Aが酒、その他がランプのあと喫茶店であった。さらにその後三回生J氏とA嬢がしめ出しをくらった。理由はここにしろすまでもなからう。同じ三回生Y氏の話によれば、しめ出しをくらったJ氏はだれも入れてくれないとわかるとあきらめてとぼとぼと一つ残った空き部屋に向かい、その部屋の中ほどにすわりこんで一人さびしそりにビスケットをほおぼっていたという。

十三日最終日は決勝種目のみ。この日も我が神大は健斗、100m Backで杉山氏がタッチの差で三位入賞でできなかったものの四位、400m R六位とそれに続く400mIMで山本氏五位。そして全員声をからして応援して800mRで五位と結局神大は19点で全国国公立五位入賞を果たしたのであった。

優勝は例のごとく筑波大、二位は名大、三・四・五位大府大・京大・神大と関西勢が踏んばった。

またこの日は女子も400mFr清水六位、100mFr寺尾五位と奮闘した。女子も例のごとく筑波大の優勝。又、総勢四名の奈良女が神大の陰

の声援をうけて三位、なお一回生Dの声援をなしく奈良教は六位までにはいれなかった。

昼の一時に大会がおわり、我々は平和公園など広島見物をし、他校は夕方の新幹線、我々は夜一時の夜行列車で帰途についたのである。午前七時三十分到家へたどりついた筆者は虚無感と長旅のつかれでそのままベットにもぐりこんだ。

なお最後にアルファベットの本名をしるしておく。

A 山本正人 B 白子 C 富岡 D 横山 D 氏 土井
J 氏 慈幸 N 氏 中尾 Y 氏 油谷

近畿国立大学体育大会自戦記

二回生 富 岡 洋 三

はじめに断わっておくが、上の題名からもわかるように、以下の文章の主人公は飽くまでも筆者であり自分中心に世界がまわっているかのごとく自己中心的に書かれたものである。これを了解していただく。

なんだかんだといいなから今シーズンもついに最後の試合となったが、これまでの練習での疲労の蓄積、記録の伸び悩み、その他の精神的な迷いなどのあった私は、今シーズン最後のチャンスである近国体を前にして、心身とも状態はよくなかった。

さらに試合の前夜は大量の蚊に悩まされ、ほとんど睡眠がとれずじまいであった。試合場である大新公園プールはすばらしいものであったが、試合前のアップもいくら泳いでも水にのって来ず、しんどいだけであった。それでもスタート台が幾分高く、いつも足から入水してしまふ私にとっては一かき一けりがうまくでき都合で、これだけがせめてもの救いであった。九時三十分より競技開始され、まずは例のごとく400m混泳予選、そして例のごとく私は予選用メンバーとして平泳を泳がされる。決勝進出が決定しているだけにれた雰囲気では先輩たちもみなインターバルなみのタイムを自分で勝手に課して、私にだけベストタイムが要求されている。第二泳者である私は1分18秒もかけて帰ってきた杉山さんにひきついでスタート。誰かさんではないが、フォームを考えながら大きく伸びる泳ぎを心がけたのでタイムは悪いと思つたが、それでも1分20秒9と意外によかった。何しろ全国国公立のときには必死になつて1分21秒がやっとこさであつたのだ。これはいけると確信した。予選は1分19秒2、予想通りのタイムで楽々と決勝に残つたが決勝ではさらに伸びそうな感じだ。自由型などと違い特に平泳はどの大会でも変わりはないわいのメンパーであるので誰がどれだけのタイムでいくかだいたいわかる。また今回は阪大のブレ陣岩井さんの不調、関原さんの欠場などもあり、六位にはいれると見た。そして午後の決勝には実に気楽な気分であつたのである。七コースで右に阪大稲葉さん、左に京大藤田。まず左を食べば入賞できる。こう思つて私は前半ビ

ツタリと彼について、75mから追いぬく腹であつたのだが、どうしたとか、彼も後半の陰険レースにそなえて力を温存したのか75mをこえてもなかなか抜けずそのままタイムでゴールイン。結局着順判定で私の負け、ちくしょうめ。それでも同じく京大の萩本さんに勝つて五位。ベテラン選手の慈幸さんも二位にはいり、神大は100m平泳で七点とつた。なお私は前半38秒、後半40秒、実質後半の方が速かつたことになる。

この日神大は予定通りのすべりだしを見せ、自己ベストが続出。私の出場しなかつた400m混泳は中尾さんの健斗が光つて大会新で優勝した。

この日の夜は蚊取線香二組にスキングードを用意し万全な蚊対策をしいてたつぷり七時間の睡眠をとつて、二日めにはだいぶよい状態でプールへ向かつた。もっとも朝食はカステラとカップラーメンというもので、このために私は下痢をおこしてしまつた。まあ、試合中の下痢はたびたびのことなのでさほど気にせず、苦手の200m平泳の予選に臨んだ。プールがよいので周囲がよく見えて、陰険レースには持つてこいである。この組で二位にはいる予定であつたが、150mのターンの後前に二人いることがわかり、何をこしやくなと思ひながら最後の25mで一人ぬいてゴールイン。これも意外なことだ。2分56秒5のベストタイム。四位で決勝に残り、再び七コースである。決勝は午後の最初のレースであつたが、杉山さんから四位入賞せよとの至上命令が下り全く気が重かつた。各選手の実力からして

どうしても六位以下、いくらよくても五位というのが私の計算であった。関国の慈善さんのようなチョンボを誰かしない限り四位などわりというものだ。

昼食の握り飯は全く口にしなかったし、アップをしても体がだるかった。そんな状態のままついに午後の決勝に臨んだ。それにしてもまた同じ顔ぶれ、となりの六コースは「近国体の大下」と異名をとる京大の大下さん。左には慈善さんの後輩である和太の宮井君。反対側には慈善、萩本、稲葉といったいつもの連中である。リラックスしようとつとめたが空しい努力におわる。関国のような惨めな結果になるのはいやだ。それでもスタート台にたつと、例のごとく落ち着いてしまった。無心の境地。上々のスタートを切り、先輩からの指示のとおり、前半意欲的にとはす。50mのターン。大下さん以外はどりやら並んでいるようだ。ん、なかなかよろしい、と思つたのもつかの間75mあたりから早くも疲れが。100mのターン、すでに八・九コースは圏外に去った。もしかして、という気持ちかわいてきた。150mのターン。大下さんとの差は全くひらいていない。そして向こう側で私とほぼ同時にターンした者が二三人。滋賀大の連中か、それとも、もう見えなくなった。ただとなりについていくしかない。みんなのコールが聞こえる。たいへんな声援、平泳はこのコールが実によく聞こえる。このために平泳をやっているようなものだ。しかしだれに向かってだろうか。おれはいつたい今何位ぐらいなのだ。あと25m、苦しい、横を見る余裕がないのでただとば

すしかない。しんどかったが最後うまい具合にラストスパートがかげられ、そのままゴールイン。さっとまわりを見回す。何位か全然わからないが、いずれにせよすばらしいレースができたこの充足感。そしておまけに二位という知らせ、何、おれが二位!? そしてタイムが何と2分51秒9、自己記録を一挙に5秒も縮めた。やった、万々歳だ。そして京大の萩本さん、阪大の稲葉さんなどに話しかけられたとき、うれしさがじーんとこみあげてきたものだ。なおこのレース、二位から五位までが0.6秒という激戦であった。それだけに二位にはいれたのはたいへん幸運であった。これがきつかけとなり(?!)、この日の神大は勢いづき、芝さんがすごい気迫を見せ200m個めで六位、200m背泳は杉山、山本両先輩は他を寄せつけず一位、200mリレーは大会タイで一位、さらにしめくくりの800mリレーは京大に逆転して二位。そして阪大に勝って総合二位に輝いたのである。初日が終わった時点でやはり二位だったものの、その後の得点計算では阪大に抜かれるであろうという予想であった。その計算を打ち破ったのが私の根性であった。

またこの大会では女子もがんばり、最後の試合となる有本さんをはじめとするリレーメンバー中心に健闘し、次々に上位入賞、一時は総合二位にまでいくかと思つたが、そこまではムリであった。それでも関西公立で敗れた奈良女に対し、雪辱なつて三位にはいった。(もつとも奈良女はベストメンバーのエントリーをくんできてなかつたようだというデータがでている情報源はふせておく)

こうして今季の正式な試合はすべておわってしまった。

思い返せば、この四ヶ月間、いろいろなことがあった。四月の凍えそうなブル、あの熱い風呂（あのころ私は50mを1分以上かけて泳いでいたのだ）京阪神の惨敗（あのとき私は200m平が3分11秒0であった）、強化練習、合宿、肝だめし、その後続けざまにあった試合、幾人かのクラブをやめていった者のことなど思い出はつきない。

調子の良いとき、悪いときなどがあったが、これで今季の目標は一部を除いてほぼ達成できた。

一回生感想ノートより

五月十一日（木） 白子 靖則

何を血迷ったのか水泳部という恐ろしいクラブに入ってしまった。そもそも僕は水泳経験がほとんどなく、入部には少し迷っていたのですが、勧誘ボスターはいい加減だし、サークルオリエンテーションには誰も説明に來ないというような部なので多分練習も楽だろうと勝手に思い込んで入部した次第です。練習が始まって自分の考えの甘さを痛感したのは言うまでもありませんが、とにかくがんばって練習について行きたいと思います。

五月二十二日（月） 辻 陽子

「新歓コンバ体験記」

私の心の中で天よりも高くそびえ立っていた崇高な杉山先輩だったのに。

その杉山さんの口から「HARU NO UTA」を聞くなんて！おまけにビール片手に踊られるなんて！

私の心の中で天よりも高くそびえ立っていた崇高な杉山先輩のイメージはガラガラと音をたてながら崩れてゆき、またいつそ私の手の届かないはるかあなたの男性になってしまいました。

☆杉山君の二文字は後藤（信）、慈幸、中尾、芝、上田などお好みによってお取り替え下さい。

五月二十二日（月） 後藤 芳光

1 昼休み、暇で暇でしようがない。グラウンドへ行ってみたが知る者がいなくいそいそとどって学館の書籍部へ。それでも暇でしよろがない。どうにかぶらぶらして三時限目の英語の授業へ。ひどい授業だ。全くおもしろくない。金をやっても断わりたくらいだ。しかし珍らしく二時半に終わった。やっとクラブ。三時少し前に行って自主トレ。50をフリーで泳いでみた。非常にきつい。その後少し巻き足の練習、30秒もせずにやめ。三時半練習開始。人数が少ない、わずかに九名弱。しかしメニューはきつかった、200アップ、PK

C六セット、800ロング、100四本、50六本、計2600。今まで最高1300だったので一気に二倍。その後水球の練習、巻き足がなかなか出来ない。練習が終わったのが六時少し過ぎ、七時過ぎに家にたどり着いた。

六月八日(木) 寺尾 紀子

「エコー」みなさんお元気！みんないろいろ悩んでんのねー。秀ちゃんの悩みについて、高校へ見に行つた時、ぼっとしたって書いてあつたけど私にもその経験あり！私の場合中学校へ行つたんやけど、ややノイローゼ状態に陥っていた私は(高2)、中学校の水泳部へ遊びに行つたの。そしたら中三の水泳大会やつたのよ。私タイム取りの手伝いしててんだけど、みんな一生懸命泳いでたんだよ。25mを立ちながら、水をのみながら、かなづちの子が本当に一生懸命。その時私はっとしたわ。なんかふっきれたわ。高校の時はクラブも全然してなかつたけど初心に帰つたようにすつとした気持ちになつて、この気持ち、この気持ち忘れずにノノと思ひながら家へ帰つたの。もう涙が出るくらい感激したんだから。自分がほんとうに小さく見えてはすかしかった。一体何にそんなに悩んでノイローゼになつたのか。私は今泳ぎたくてしかたない。高校三年間できなかつた分、本当に泳ぎたいのよ。私は今とっても幸せです。こんな楽しいクラブに入れて、去年の今頃の私を思うと、うそみたいでこわいくらい。浪人時代をのりこえた私は何でも、どんなに苦しくても、やりぬけるといふ自信があるんです。青春万歳ノノ

です。

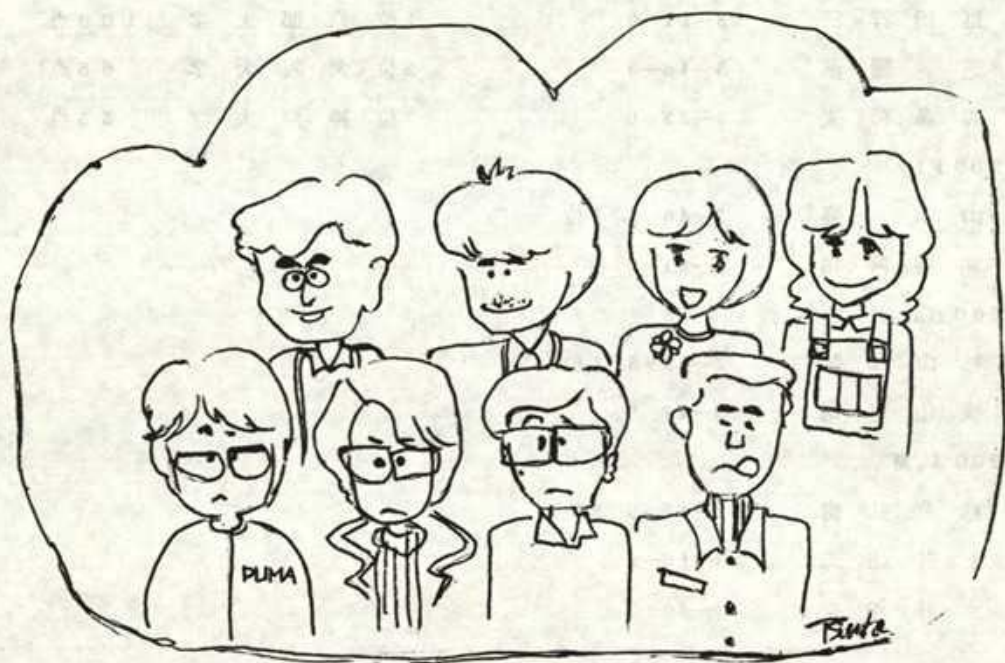
六月九日(金) 森田 恵

私はなにゆえに水泳部などという恐ろしきクラブに入つたのでしょうか。友供に「クラブは何？」と聞かれ「水泳部」と答えると、返ってくるお言葉は「すごいねー」なのです。そもそも大学で運動クラブに入ろうなどと少しも考えていなかったのです。浪人中は一度しか泳ぎに行けなかつたし、神大の教養の体育には水泳がないと聞いて泳ぎたいなあと思つていたところに運命の人に出会つたのです。その名は「エコー」(寺尾) ジャーン。私は泳ぐのはもちろん好きだけど人が泳いでいるのを見るのも好きなのです。あの水しぶきの音がたまらない。エコーに誘われて見学だけのつもりでついでにいたのです。それから毎日のようにエコーや辻さんに軟誘され、だんだんその気になり他のクラブ見学に行くのもめんどりになり、結局水泳部におちついたのです。ともかく入部したからにはがんばりたいと思ひます。

六月二十三日(金) 富岡 洋三

六月十四日の練習ほどつらかつたことはかつてなかつた。一分まわしの五十米十六本はさほどきついとは思われなかつたが、慈幸さんの「イレギュラーの者に気迫が全く感じられない」杉山さんの「一本でもついていかなあかん」といふ言葉を忠実に守つたため、

始めの三本でぐったり、残り十三本が苦しくて仕方がなかった。秀石の退部のこともあって泳ぎながら絶対にやめるとただそれだけを考えていた。十六本終わってみるともう放心状態でただ寝たかった。しばらくしてやっと考える気が出てきた。よくよく考えてみれば俺は絶対やめられない運命にあるのだ。理由は言わずとも賢明なる読者諸君ならわかる。しかしその後一週間ほどは泳ぐたびにこの辛さを思い出し特にターンで息が苦しくなるとギャーツノと騒ぎたくなるようなノイローゼに陥ってしまった。こんなことはかつてなかったのに。俺の根性とはこんなものだったのかと自分で情けなくなった。しかし父親に言わせてみれば「今どんなつらいことがあっても大学のときの練習の辛らさに比べればまだ……」なのだそうである。もっと自分を苦しめなければならぬのだ。自分をふり返ってみてこの十八年間で、自分は何と恵まれた環境で育ってきたか。何と甘やかされて育ってきたことか。本当に苦勞を知らない。自分の家があり、健全な家庭があり、自分の部屋には冷暖房完備、金はいつでも親からもらえる。いつでも好きな物が好きなだけ食える。いつでも自分のしたいことが自由にできる。阪急はいつも優勝する。不満も山ほどあるが、くだらぬことだ。私は温室育ちの現代っ子であり、まさに甘えん坊なのである。だからみんなからいかに現役という雰囲気だと言われるとき実は胸をぐさっと突かれたような思いをするのである。



昭和 53 年度 成績

「京阪神三大学戦」 6月11日 於 関西大学プール(50m)

○ 100 Free

中尾 稔 1-10-2 3位
 横山 雅司 1-17-0 6位
 土井 和幸 1-22-4

○ 400 Free

亀井 尚之 6-13-8 6位
 土井 祐二 6-44-2
 養谷 祐司 7-40-2

○ 800 Free

山本 隆 10-41-4 2位

○ 200 Breast

富岡 洋三 3-11-0
 芝 暢彦 3-18-3
 森鼻 隆夫 3-22-0

○ 200 Fly

山本 隆 2-46-1 1位
 油谷 隆司 5-21-6

○ 200 Back

杉山 和弘 2-39-8 1位
 横山 雅司 3-47-9

○ 200 I.M

慈幸 弘樹 2-42-0 2位
 土井 祐二 3-16-6
 土井 和幸 3-46-2

○ 400 I.M

富岡 洋三 7-03-8 4位
 久保田 純生 8-10-0

○ 400 M.R

(杉山・慈幸・山本・中尾) 4-56-0

○ 800 R

10-01-9

総 合

1位 京都大学 100点
 2位 大阪大学 65点
 3位 神戸大学 55点

「兵庫県学生選手権大会」 7月9日 於 神戸商船大学プール(25m)

[男子] 但し、決勝記録のみ

○ 100 Free		
杉山和弘	58-8	1位 (大会新)
中尾稔	1-05-6	6位
○ 200 Free		
中尾稔	2-27-3	4位
○ 800 Free		
亀井尚之	11-53-8	6位
○ 100 Breast		
慈幸弘樹	1-15-3	1位
富岡洋三	1-19-6	4位
○ 100 Fly		
山本隆	1-07-4	2位
○ 200 Fly		
山本隆	2-35-4	1位 (大会新)
芝暢彦	3-14-7	5位
○ 100 Back		
杉山和弘	1-09-1	1位 (大会新)
館谷彰司	1-27-8	6位
○ 200 Back		
横山雅司	3-02-7	5位
館谷彰司	3-05-2	6位
○ 400 M.R		
(杉山・慈幸・山本・中尾)	4-37-2	1位
○ 800 R		
(中尾・慈幸・杉山・山本)	9-11-9	1位 (大会新)

総合

1位	甲南大学	75点
2位	神戸大学	73点
3位	関西学院大学	57点

以下略

[女子]

○ 100 Free		
寺尾紀子	1-13-9	2位
清水万里	1-17-0	3位
○ 200 Free		
橋爪啓子	3-10-0	3位
○ 400 Free		
清水万里	5-54-3	3位
橋爪啓子	6-53-2	4位
○ 100 Breast		
森田恵	1-41-5	3位
○ 100 Fly		
辻陽子	1-32-8	3位
○ 100 Back		
松木克江	1-45-9	3位
○ 200 Back		
松木克江	3-53-6	2位
○ 200 I.M		
寺尾紀子	3-12-7	3位
辻陽子	3-19-4	4位
○ 400 M.R		
(清水・辻・森田・寺尾)	6-00-7	2位
○ 400 R		
(清水・橋爪・辻・寺尾)	5-22-6	2位

総合

1位	武庫川大学
2位	神戸大学
3位	甲南大学

「関西国公立大学」 7月15・16日 於 京都大学プール(50m)

〔男子〕

○100 Free

中尾 稔 1-08-0

久保田 純生 1-13-6

土井 和幸 1-19-6

○200 Free

中尾 稔 2-32-0

土井 祐二 2-46-0

白子 靖則 2-54-3

○400 Free

亀井 尚之 5-38-3

土井 祐二 6-04-6

白子 靖則 6-24-3

○1500 Free

亀井 尚之 23-19-4

養谷 祐司 29-08-5

○100 Breast

慈幸 弘樹 1-18-6 3位

冨岡 洋三 1-20-3

森鼻 隆夫 1-27-8

○200 Breast

冨岡 洋三 2-56-9

慈幸 弘樹 2-58-6

芝 暢彦 3-05-6

○100 Fly

山本 隆 1-08-4 2位

油谷 隆司 1-41-5

○200 Fly

山本 隆 2-38-4 1位

油谷 隆司 4-12-3

○100 Back

杉山 和弘 1-09-3 1位

横山 雅司 1-26-0

館山 彰司 1-28-3

○200 Back

杉山 和弘 2-36-2 1位

横山 雅司 3-12-1

館谷 彰司 3-12-7

○200 I.M

芝 暢彦 2-59-2

○400 I.M

久保田 純生 7-37-2

○400 R

(中尾・慈幸・杉山・山本) 4-14-8 4位

○400 M.R

(杉山・慈幸・山本・中尾) 4-44-5 3位

○800 R

(中尾・杉山・慈幸・山本) 9-33-0 2位

総 合

1位 大阪府立大学 97点

2位 京都大学 66点

3位 神戸大学 42点

4位 大阪大学 42点

5位 滋賀大学 25点

以下略

「関西国公立大学」 7月15・16日 於 京都大学プール(50m)

[女子]

o 100 Free

寺尾紀子 1-14-5 2位

橋爪啓子 1-30-2

o 200 Free

寺尾紀子 2-47-4 2位

清水万里 2-49-9 3位

o 400 Free

清水万里 6-14-0 3位

o 100 Breast

森田 恵 1-43-3 4位

橋爪啓子 1-52-7

o 200 Breast

森田 恵 3-43-9 5位

o 100 Back

松木克江 1-44-7 6位

o 200 Back

松木克江 3-53-0 5位

o 100 Fly

辻 陽子 1-36-5 4位

o 200 Fly

有本智恵 3-33-2 3位

辻 陽子 3-41-2 5位

o 400 M. R

(清水・森田・有本・寺尾) 6-03-7 3位

o 200 R

(清水・有本・辻・寺尾) 2-21-3 3位

o 400 R

(清水・有本・辻・寺尾) 5-26-6 3位

總 合

1位 奈良教育大学 68点

2位 大阪教育大学 55点

3位 奈良女子大学 52点

4位 神戸大学 47点

「第46回旧三商大水上競技大会」 7月23日 於 大阪市大プール(50m)

〔競泳の部〕

○ 100 Free

中尾 稔 1-06-8 1位

杉山 和弘 1-06-9 2位

○ 400 Free

杉山 和弘 5-02-8 1位

亀井 尚之 5-49-2 5位

○ 800 Free

山本 隆 10-44-4 1位

亀井 尚之 12-15-7 5位

○ 200 Breast

富岡 洋三 2-57-8 1位

森鼻 隆夫 3-09-2 4位

○ 200 Fly

山本 隆 2-40-5 2位

油谷 隆司 4-01-7 5位

○ 200 Back

慈幸 弘樹 2-46-5 1位

館谷 彰司 3-15-0 3位

○ 200 I.M

慈幸 弘樹 2-43-2 1位

芝 暢彦 2-58-9 4位

○ 400 M.R

(杉山・慈幸・山本・中尾) 5-00-6 1位

○ 800 R

(中尾・山本・慈幸・杉山) 9-54-4 1位

競泳順位

1位 神戸大学 82点

2位 一橋大学 63点

3位 大阪市立大学 35点

〔水球の部〕

神大 5 - 8 一橋

神大 8 - 2 市大

水球順位

1位 一橋大学

2位 神戸大学

3位 大阪市立大学

「第59回対市大戦」 7月30日 於 大阪市大プール(50m)

〔競泳の部〕

○100 Free

杉山和弘	1-08-7	1位
白子靖則	1-12-4	3位
東圭一	1-18-9	5位

○400 Free

杉山和弘	5-23-6	1位
中尾稔	5-36-9	3位
土井和幸	6-48-6	5位

○800 Free

山本隆	10-49-3	1位
亀井尚之	13-10-1	4位
養谷祐司	17-25-6	6位

○200 Breast

冨岡洋三	2-58-3	1位
森鼻隆夫	3-12-2	4位
後藤芳光	3-25-7	6位

○200 Fly

山本隆	2-59-2	1位
油谷隆司	3-48-2	4位
久保田純生	3-51-4	5位

○200 Back

慈幸弘樹	2-48-0	1位
横山雅司	3-11-0	2位
館谷彰司	3-13-7	4位

○200 I.M

慈幸弘樹	2-43-9	1位
芝暢彦	2-54-6	2位
土井祐二	3-12-4	4位

○400 M.R

(油谷・杉山・慈幸・中尾) 5-08-1 1位

○800 R

(土井・館谷・中尾・慈幸) 10-32-2 1位

競泳の部 優勝

〔水球の部〕

神大 6 - 1 市大

水球の部 優勝

「第50回関西学生選手権水上競技大会」

8月4・5日 於 大阪工業大学プール(50m)

o 100 Free

中尾 稔 1-07-13

白子 靖 則 1-13-03

o 200 Free

中尾 稔 2-34-26

土井 祐 二 2-48-73

o 400 Free

山本 隆 4-57-74

亀井 尚 之 5-44-60

o 800 Free

亀井 尚 之 12-16-20

久保田 純 生 12-42-49

o 100 Breast

富岡 洋 三 1-22-32

森 鼻 隆 夫 1-27-57

o 200 Breast

富岡 洋 三 3-00-57

慈 幸 弘 樹 3-05-55

o 100 Bu

油 谷 隆 司 1-35-17

横 山 雅 司 1-38-08

o 200 Bu

油 谷 隆 司 3-55-12

o 100 Back

杉 山 和 弘 1-09-44 7位

横 山 雅 司 1-27-12

o 200 Back

杉 山 和 弘 2-36-59

館 谷 彰 司 3-08-48

o 200 I.M

慈 幸 弘 樹 2-42-29

土 井 和 幸 3-25-97

o 400 I.M

山 本 隆 5-45-18

芝 暢 彦 6-21-92

o 400 M.R

(慈幸・富岡・山本・亀井) 5-07-20 8位

o 400 R

(山本・杉山・中尾・慈幸) 4-18-39 7位

o 800 R

(山本・杉山・慈幸・中尾) 9-35-45 8位

神大は0点

この結果2部陥落

「関西女子学生選手権大会」 8月4・5日 於 大阪工業大学プール(50m)

o 100 Free

寺尾紀子 1-17-23

橋爪啓子 1-31-02

o 200 Free

寺尾紀子 2-54-98

清水万里 2-56-86

o 100 Breast

森田 惠 1-44-77

o 200 Breast

森田 惠 3-42-27

o 100 Fly

辻 陽子 1-41-00

o 200 Fly

辻 陽子 3-47-92

o 100 Back

松木克江 1-46-84

橋爪啓子 1-52-90

o 200 Back

松木克江 3-51-33

o 200 I.M

清水万里 3-17-21

o 200 R

(清水・辻・橋爪・寺尾) 2-28-97

o 400 R

(清水・橋爪・辻・寺尾) 5-37-89

o 400 M.R

(清水・森田・辻・寺尾) 5-57-50 8位

「第25回全国国公立大学選手権大会

8月11・12・13日 於 広島大学プール(50m)

〔男子〕

○100 Free

中尾 稔	1-06-6
白子 靖則	1-12-0
山本 正人	1-37-5

○200 Free

中尾 稔	2-30-3
土井 祐二	2-44-7
白子 靖則	2-54-2

○400 Free

亀井 尚之	5-37-4
土井 和幸	6-34-5

○1500 Free

亀井 尚之	23-27-6
久保田 純生	26-09-4

○100 Breast

冨岡 洋三	1-20-5
芝 暢彦	1-25-8
森 鼻 隆夫	1-29-1

○200 Breast

慈 幸 弘 樹	2-57-8
冨岡 洋三	2-58-7
後藤 芳光	3-26-7

○100 Fly

油谷 隆司	1-39-6
-------	--------

○200 Fly

山本 隆	2-36-9	3位
油谷 隆司	3-59-3	

○100 Back

杉山 和弘	1-09-2	4位
横山 雅司	1-26-6	
館谷 彰司	1-29-4	

○200 Back

杉山 和弘	2-34-2	4位
横山 雅司	3-09-4	
館谷 彰司	3-14-7	

○200 I.M

慈 幸 弘 樹	2-35-6	6位
芝 暢彦	2-52-4	
土井 祐二	3-04-7	

○400 I.M

山本 隆	5-43-6	5位
久保田 純生	7-17-8	
土井 和幸	7-28-3	

○400 M.R

(杉山・慈幸・山本・中尾) 4-41-2 4位

○400 R

(中尾・慈幸・杉山・山本) 4-13-0 6位

○800 R

(杉山・慈幸・中尾・山本) 9-37-6 5位

〔女子〕

○100 Free

寺尾 紀子	1-17-7
-------	--------

○200 Free

寺尾 紀子	2-54-2
清水 万里	2-55-6

○400 Free

清水 万里	6-14-1
-------	--------

1位 筑波大学

2位 名古屋大学

3位 大阪府立大学

4位 京都大学

5位 神戸大学

6位 秋田大学 以下略

〔第16回近畿地区国立大学体育大会〕

8月17・18日 於 和歌山大新公園プール(50m)

〔男子〕

○100 Free

中尾 稔 1-07-2
白子 靖 則 1-10-1
土井 和 幸 1-15-0

○200 Free

中尾 稔 2-31-0 6位
土井 祐 二 2-49-4
山本 正 人 3-36-5

○400 Free

亀井 尚 之 5-44-9
土井 祐 二 6-12-3
白子 靖 則 6-15-9

○800 Free

亀井 尚 之 11-49-5
久保田 純 生 13-05-7
土井 和 幸 14-23-1

○100 Breast

慈 幸 弘 樹 1-16-8 2位
(大会新)
富 岡 洋 三 1-18-6 5位
芝 暢 彦 1-24-2

○200 Breast

富 岡 洋 三 2-51-9 2位
慈 幸 弘 樹 2-52-5 5位
森 鼻 隆 夫 3-12-6

○100 Bu

山本 隆 1-09-0 4位
油谷 隆 司 1-34-1

○200 Bu

山本 隆 2-42-3 1位
油谷 隆 司 4-02-2

○100 Back

杉山 和 弘 1-10-3 1位
館谷 彰 司 1-37-0
後藤 芳 光 1-42-2

○200 Back

杉山 和 弘 2-36-8 1位
館谷 彰 司 3-11-5

○200 I.M

芝 暢 彦 2-48-9 6位
土井 和 幸 3-17-8
後藤 芳 光 3-45-0

○400 I.M

久保田 純 生 7-09-5

○400 M.R

(杉山・慈幸・山本・中尾) 4-39-7 1位
(大会新)

○200 R

(中尾・慈幸・山本・杉山) 1-50-1 1位
(大会新)

○800 R

(中尾・慈幸・杉山・山本) 9-32-4 1位
(大会新)

1位 京 都 大 学 90点

2位 神 戸 大 学 61点

3位 大 阪 大 学 54点

以下略

「第16回近畿地区国立大学体育大会」

8月17・18日 於 和歌山大新公園プール(50m)

〔女子〕

○50 Free		1位 奈良教育大学 60点
寺尾紀子	32-5 2位 (大会新)	2位 大阪教育大学 58点
清水万里	34-0 4位 (大会新)	3位 神戸大学 49点
○100 Free		以下略
寺尾紀子	1-14-8 3位 (大会新)	
○100 Breast		
森田 惠	1-40-6 4位	
○200 Breast		
清水万里	3-24-2 2位	
森田 惠	3-35-2 6位	
○50 Fly		
有本智恵	37-0 2位	
○100 Fly		
有本智恵	1-33-2 3位	
辻 陽子	1-34-1 4位	
○50 Back		
松木克江	46-0 6位	
○100 Back		
松木克江	1-44-0 6位	
○200 I.M		
辻 陽子	3-18-4 3位	
○200 M.R		
(清水・森田・有本・寺尾)	2-35-4 3位	
○200 R		
(清水・辻・有本・寺尾)	2-18-0 4位 (大会新)	
○400 R		
(清水・辻・有本・寺尾)	5-23-7 4位 (大会新)	

現役部員ベスト記録一覧

男子

1978年9月現在

*は十傑に入っている記録を示す。

種目	氏名	学年	100m	200m	400m	800m
Free	杉山和弘	4	58-8*	2-14-0*	4-55-2*	10-46-1*
	慈幸弘樹	4	1-04-0*	2-25-9	5-07-5*	10-52-6*
	中尾稔	4	1-05-6	2-24-9*	5-36-9	
	土井祐二	4	1-12-4	2-40-6	6-01-6	12-40-9
	山本隆	3	1-01-7*	2-21-5*	4-55-1*	10-22-1*
	上田剛弘	3	1-05-4	2-29-5	5-14-3*	11-46-2
	亀井尚之	3	1-09-8	2-35-0	5-41-3	11-49-0
	久保田純生	3	1-14-1	2-58-2	6-21-3	12-42-4
	土井和幸	3	1-14-8	2-59-3	6-48-6	14-22-4
	白子靖則	2	1-10-1	2-54-3	6-15-3	
Brest	慈幸弘樹	4	1-15-3*	2-49-2*		
	芝暢彦	3	1-24-4	3-05-0		
	森鼻隆夫	3	1-24-4	3-08-0		
	冨岡洋三	2	1-18-4*	2-51-9*		
	後藤芳光	2	1-26-2	3-17-8		
Back	杉山和弘	4	1-07-7*	2-34-2*		
	慈幸弘樹	4		2-46-5*		
	館谷彰司	4	1-27-1	3-04-4		
	芝暢彦	3		2-59-9		
Butterfly	杉山和弘	4	1-09-6*			
	慈幸弘樹	4	1-11-1*			
	油谷隆司	4	1-30-6			
	山本隆	3	1-07-4*	2-35-2*		
I.M.	慈幸弘樹	4		2-33-0*	5-44-2*	
	山本隆	3			5-25-9*	
	芝暢彦	3		2-48-9*	6-21-9*	
	久保田純生	3		3-28-5	7-09-5	

女子

種目	氏名	学年	50 m	100 m	200 m	400 m
Free	清水万里	4	33-8	1-15-9	2-49-9	5-54-3
	松木克江	4		1-40-0		
	稲爪啓子	3	40-0	1-28-6	3-10-0	6-53-2
	寺尾紀子	2	32-5	1-13-8	2-46-6	
Brest	清水万里	4			3-23-8	
	森田 恵	2		1-40-1	3-34-9	
Back	清水万里	4	43-0	1-29-6	3-13-6	
	松木克江	4	45-9	1-43-7	3-53-0	
Butter fly	清水万里	4		1-42-3		
	辻 陽子	2		1-32-8	3-37-1	
I.M.	清水万里	4			3-17-2	
	辻 陽子	2			3-18-1	
	寺尾紀子	2			3-12-9	

歴代 10 傑 表

昭和 54 年 3 月現在

一〇〇m自由型

1	浜川広海	学22	58-8	S.26
1	杉山和弘	新28	58-8	S.53
3	村田邦夫	新26	1-00-7	S.51
4	山本隆	新29	1-01-7	S.53
5	丸末一之	新25	1-02-8	S.51
6	佐敷定雄	新22	1-03-1	S.47
7	中西康之	新25	1-03-7	S.50
8	平石康	新26	1-03-8	S.52
9	慈幸弘樹	新28	1-04-0	S.52
10	大林良和	新26	1-04-0	S.52

二〇〇m自由型

1	浜川広海	学22	2-09-0	S.26
2	杉山和弘	新28	2-14-0	S.52
3	村田邦夫	新26	2-17-5	S.51
4	丸末一之	新25	2-19-9	S.51
5	山本隆	新29	2-21-5	S.52
6	佐敷定雄	新22	2-23-0	S.48
7	大林良和	新26	2-23-1	S.52
8	木村多加緒	新18	2-24-0	S.43
9	中尾稔	新28	2-24-9	S.53
10	中西康之	新25	2-25-0	S.49

四〇〇m自由型

1	山本隆	新29	4-55-1	S.53
2	杉山和弘	新28	4-55-2	S.52
3	丸末一之	新25	5-01-5	S.51
4	慈幸弘樹	新28	5-07-5	S.53
5	大林良和	新26	5-08-9	S.49
6	村田邦夫	新26	5-12-2	S.51
7	上田剛弘	新29	5-14-3	S.52
8	玉置明	新18	5-14-7	S.43
9	高岡保宏	新10	5-18-1	S.34
10	平石康	新26	5-20-3	S.52

八〇〇m自由型

1	山本隆	新29	10-22-1	S.53
2	丸末一之	新25	10-36-3	S.51
3	杉山和弘	新28	10-46-1	S.52
4	大林良和	新26	10-48-4	S.49
5	慈幸弘樹	新28	10-52-6	S.53
6	玉置明	新18	11-00-4	S.43
7	木村多加緒	新18	11-04-1	S.42
8	浅間啓介	新10	11-12-2	S.36
9	高岡保宏	新10	11-20-1	S.34
10	佐敷定雄	新22	11-20-4	S.48

一〇〇m平泳

1	鈴木俊彦	新17	1-14-3	S.42
2	慈幸弘樹	新28	1-15-3	S.52
3	平石康	新26	1-17-5	S.51
4	冨岡洋三	新30	1-18-5	S.53
5	菊田修三	新18	1-19-0	S.44
6	後藤信人	新26	1-19-7	S.52
7	佐藤弘之	新25	1-20-8	S.51
8	酒井正人	新26	1-21-5	S.52
9	安茂弘	新11	1-22-6	S.40
10	栗原稔	新	1-22-8	S.40
10	渡辺義治	新23	1-22-8	S.47
10	小林正文	新25	1-22-8	S.51

二〇〇m平泳

1	平石康	新26	2-45-1	S.52
2	鈴木俊彦	新17	2-45-5	S.43
3	慈幸弘樹	新28	2-49-2	S.53
4	冨岡洋三	新30	2-51-9	S.53
5	後藤信人	新26	2-55-0	S.52
6	阿部洋三	新15	2-55-5	S.39
7	菊田修三	新18	2-55-6	S.44
8	小林正文	新25	2-59-3	S.51
9	小岩切博	新19	2-59-9	S.45
10	大崎		3-00-2	S.39

一〇〇m背泳

1	杉山和弘	新28	1-07-7	S.53
2	田淵五郎	新3	1-11-8	S.27
3	酒井正人	新26	1-12-5	S.51
4	木村多加緒	新18	1-12-7	S.43
5	井上隆史	新10	1-14-0	S.36
6	玉木喜代明	新19	1-14-6	S.44
7	岡村司	新7	1-16-0	S.33
8	印南修三	新22	1-16-7	S.46
9	岡見晴児	新6	1-17-0	S.31
10	部坂克夫		1-17-2	S.12

二〇〇m背泳

1	杉山和弘	新28	2-34-2	S.53
2	木村多加緒	新18	2-34-8	S.43
3	酒井正人	新26	2-35-2	S.52
4	玉木喜代明	新19	2-44-3	S.44
5	慈幸弘樹	新28	2-46-5	S.53
6	印南修三	新22	2-47-7	S.46
7	瓜生誠二郎	新23	2-49-4	S.47
8	木下雅浩	新14	2-52-2	S.44
9	福田大弐		2-53-8	S.44
10	佐藤弘之	新25	2-56-8	S.48

一〇〇m蝶泳

1	佐敷定雄	新22	1-05-2	S.46
2	山本隆	新29	1-07-4	S.53
3	大橋進	新19	1-09-1	S.44
4	杉山和弘	新28	1-09-6	S.52
5	阿部洋三	新15	1-10-0	S.41
6	由佐禎男	新15	1-11-0	S.41
7	慈幸弘樹	新28	1-11-1	S.51
8	村田邦夫	新26	1-13-2	S.52
9	佐藤弘之	新25	1-13-7	S.49
10	熊岡禎二	新27	1-15-9	S.44

二〇〇m 蝶泳

1	佐敷定雄	新22	2-29-6	S.48
2	山本隆	新29	2-35-2	S.53
3	阿部洋三	新15	2-40-1	S.41
4	大橋進	新19	2-48-1	S.45
5	森田徹	新18	2-51-6	S.44
6	村田邦夫	新26	2-52-5	S.51
7	藤森一男	新23	2-53-1	S.49
8	安部		2-56-1	S.38
9	佐藤弘之	新25	2-57-2	S.49
10	武政英幸	新12	2-59-5	S.38

二〇〇m 個メ

1	慈幸弘樹	新28	2-33-0	S.52
2	平石康	新26	2-39-0	S.52
3	酒井正人	新26	2-41-9	S.52
4	鈴木俊彦	新17	2-44-1	S.42
5	小越信昭	新14	2-44-5	S.38
6	佐敷定雄	新22	2-45-6	S.48
7	佐藤弘之	新25	2-46-8	S.48
8	丸末一之	新25	2-47-5	S.50
9	木村多加緒	新18	2-48-6	S.43
10	芝暢彦	新29	2-48-9	S.53

四〇〇m 個メ

1	山本隆	新29	5-25-9	S.53
2	慈幸弘樹	新28	5-44-2	S.51
3	平石康	新26	5-56-2	S.51
4	木村多加緒	新18	5-58-2	S.43
5	鈴木俊彦	新17	5-59-4	S.42
6	酒井正人	新26	6-06-0	S.52
7	佐藤弘之	新25	6-15-4	S.48
8	沢内孝夫		6-15-8	S.42
9	芝暢彦	新29	6-21-9	S.53
10	熊岡禎二	新17	6-23-5	S.44

二〇〇m 継泳

1	中尾・慈幸・山本・杉山	1-50-1	S.53
2	中尾・山本・酒井・杉山	1-53-5	S.52
3	慈幸・丸末・村田・木戸	1-55-0	S.51
4	丸末・佐藤・伊藤・中西	1-57-3	S.50
5	佐藤・大林・中西・丸末	1-57-4	S.49

四〇〇m 混泳

1	杉山・慈幸・山本・中尾	4-37-2	S.53
2	酒井・慈幸・山本・杉山	4-37-6	S.52
3	酒井・平石・慈幸・杉山	4-42-4	S.52
4	酒井・平石・杉山・村田	4-43-9	S.52
5	酒井・後藤・村田・杉山	4-44-7	S.52
6	杉山・富岡・山本・中尾	4-45-2	S.53
7	酒井・平石・慈幸・村田	4-45-7	S.51
8	木村・鈴木・大橋・以西	4-48-5	S.43
9	玉木・菊田・大橋・山本	4-52-6	S.44
10	木村・鈴木・熊本・以西	4-52-9	S.41

四〇〇m 継泳

1	中尾・慈幸・山本・杉山	4-13-0	S.53
2	杉山・慈幸・平石・村田	4-13-1	S.52
3	酒井・平石・慈幸・杉山	4-19-5	S.52
4	丸末・慈幸・酒井・村田	4-19-9	S.51
5	慈幸・伊藤・村田・丸末	4-21-3	S.51
6	以西・玉置・熊岡・木村	4-32-2	S.43
7	中西・藤森・佐藤・佐敷	4-33-3	S.48
8	丸末・長谷川・天野・佐敷	4-35-5	S.48
9	小林・岩切・大橋・佐敷	4-39-0	S.45
10	小林・藤井・大橋・佐敷	4-46-8	S.45

八〇〇m 継泳

1	中尾・慈幸・杉山・山本	9-11-9	S.53
2	杉山・平石・上田・山本	9-25-8	S.52
3	丸末・伊藤・慈幸・村田	9-33-0	S.51
4	大林・慈幸・平石・杉山	9-36-2	S.52
5	慈幸・酒井・村田・杉山	9-44-9	S.52
6	丸末・酒井・慈幸・村田	9-48-3	S.51
7	平石・慈幸・村田・丸末	9-53-7	S.51
8	丸末・中西・大林・天野	9-54-9	S.49
9	中西・丸末・天野・佐敷	10-05-2	S.48
10	大林・佐藤・中西・丸末	10-08-6	S.50

昭和53年度凌泳会総会報告

幹事 萩原 武

凌霜会75周年記念業事に合わせて、長年の懸案でありました凌泳会全国大会を兼ねさせていただいた結果、今総会は多数の大先輩をはじめ30名を超える会員の御出席を得、まことに盛会でありました事を心から御礼申し上げますと共に、時間の制約と議事運営のまずさにつきまして凌霜会行事を繰り合わせ御出席下さいました会員各位に対し、紙面を借りて御 び申し上げます。

議事に先立ち遠路御出席下さいました小山新会長より御挨拶を頂きました。

精気あふれる御話は本会の前途を象徴するかのようにまことに心強く感じた次第です。

引続き会員各位より自己紹介をして頂きましたが、それぞれ含蓄に満ちた、歴史の重みを感じられる御話で時間の制約が本当に残念でした。

議事に入って石井幹事長より52年度経過報告、前回の総会時に開催された故古林先生を偲ぶパーティーの状況、その他凌泳会活動の概要が報告されました。

次いで会費改訂の審議に移り、高令会員の会費免除ならびに会費の改訂について承認を頂きました。高令者の会費免除により、会費の引上げを行なっても必然的に予算規模の縮小が懸念される点については支部幹事を中心とした会費相互の連絡強化と「凌泳」発行のタイミングを5月中旬とし、学生の会員訪問を積極的に進めることによる会費徴集率の改善により対処することで原案通り承認を頂きました。従いまして学部卒業後44年を経過された会員は会費免除とし、併せて会費は4千円に改訂されることになりました。

なお会費免除の会員におかれましても御寄付はこれを拒みませんので引続きよろしく御願い申し上げます。

役員の一部改選につきましては次の通り御承認を頂きました。

関東支部 小山賢之助氏、会長就任に伴い支部幹事辞任。

同 森 芳夫氏、辞意により支部幹事辞任。

中国支部 古川富貴夫氏、辞意により支部幹事辞任。

同 大内 義仁氏、中国支部幹事に就任。

なお関東支部の後任支部幹事につきましては支部に一任し、次回総会にて御報告を頂く事になりました。

以上53年度総会について要点のみ御報告申し上げます。

昭和52年度決算報告

(凌 泳 会)

収 入	支 出
凌 泳 会 費 6 6 4,0 0 0	「凌泳」発行費 2 6 9,0 0 0
寄 付 1 2 6,0 0 0	会 合 費 4 8,9 8 0
7 9 0,0 0 0	通 信 費 1 0 7,3 7 1
納入者 170名	交 通 費 4 3,2 3 0
(可納者 231名)	基 金 積 立 2 0,0 0 0
7 4%	基 金 返 済 7 4,0 0 0
	水 泳 部 援 助 2 2 7,4 1 9
	7 9 0,0 0 0

(全 国 凌 泳 会 基 金)

収 入	
繰 越 金	2 6,0 0 0
返 済 金	7 4,0 0 0
5 2 年 度 積 立 金	2 0,0 0 0
	1 2 0,0 0 0

(水 泳 部)

収 入	支 出
繰 越 金 1 6,4 2 0	燃 料 費 1,6 0 0
部員アルバイト 6 9,9 0 0	水 連 登 録 費 3 3,0 0 0
育 友 会 援 助 6 0,0 0 0	試 合 練 習 費 6 3,0 5 0
凌 泳 会 援 助 2 2 7,4 1 9	交 通 通 信 費 1 4,2 5 6
部 員 負 担 9 4 8,7 0 0	設 備 消 耗 品 費 1 0 6,6 0 0
1,3 2 2,4 3 9	会 合 費 3 3 1,9 5 0
	合 宿 費 春 3 7 8,0 0 0
	夏 3 1 1,3 5 5
	雑 費 5,1 7 5
	繰 越 金 7 7,4 5 3
	1,3 2 2,4 3 9

昭和53年度予算案

(凌 泳 会)

収 入	支 出
凌泳会会費 520,000	「凌泳」発行費 200,000
寄 付 80,000	会 合 費 40,000
600,000	通 信 費 112,500
	交 通 費 40,000
4,000円×130名	基 金 積 立 20,000
(免除のため納入可能者209名)	水泳部援助 187,500
約63%	600,000

(全 国 凌 泳 会 基 金)

収 入	支 出
繰越金 120,000	凌泳会全国大会費 30,000
53年度積立金 20,000	次年度繰越金 110,000
140,000	140,000

(水 泳 部)

収 入	支 出
繰越金 77,453	水連登録費 35,000
凌泳援助 187,500	試合練習費 50,000
育友会援助 60,000	交通通信費 10,000
部員負担 730,000	設備消耗品費 90,000
1,054,953	燃 料 費 13,500
	会 合 費 250,000
	合 宿 費 春 304,670
	夏 300,000
	雑 費 1,783
	1,054,953

昭和 53 年度行事

- 4/ 5 (木) ~ 4/ 8 (土) 春季合宿 (淡路島、大磯温泉 プール)
- 5/13 (土) 凌泳総会、凌泳会全国大会 (六甲台)
- 5/20 (土) 新入生歓迎コンパ (エクラン)
- 6/ 4 (日) 県春季水球大会 (市立須磨高校)
- 6/11 (日) 京阪神三大学戦 (関西大学)
- 6/18 (日) 関西ボロリーグ戦 (大阪市立大学)
- 7/ 3 (月) ~ 7/ 7 (金) 夏季第一次合宿 (六甲台)
- 7/ 9 (日) 兵庫県学生選手権 (神戸商船大学)
- 7/15 (土) ・ 7/16 (日) 関西国公立戦 (京都大学)
- 7/18 (火) ~ 7/21 (金) 夏季第二次合宿 (水球特訓) (六甲台)
- 7/23 (日) 旧三商大戦 (大阪市立大学)
- 7/30 (日) 対市大戦 (大阪市立大学)
- 8/ 4 (金) ・ 8/ 5 (土) 関西インカレ (大阪工業大学)
- 8/11 (金) ~ 8/13 (日) 全国国公立戦 (広島大学)
- 8/17 (土) ・ 8/18 (日) 近畿地区国立大学体育大会 (和歌山、大新公園プール)
- 9/ 3 (日) 京阪神三大学J戦 (六甲台)
- 9/10 (日) 関西ボロリーグJ戦 (大阪市立大学)
- 9/15 (金) 月見の宴
- 11/ 5 (日) 体育祭 (ソフトボールベスト8 進出)
- 11/11 (土) ・ 11/12 (日) 六甲台祭 (焼鳥屋)
- 11月末~ 東京・関西地区OB 回り
- 12/ 9 (土) 追い出しコンパ (エクラン)
- 1/14 (日) 初泳ぎ (西代県民スポーツ会館プール)

凌 泳 会 会 則

第一章 総 則

第一条 (名 称)

本会は凌泳会と称する。

第二条 (事務所)

本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三条 (目 的)

本会は会員相互の連絡と新睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条 (事 業)

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五条 (会則の改廃)

本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なり。

第二章 会 員

第六条 (会 員)

本会の会員を分けて正会員、特別会員、及び在学会員とする。

第七条 (正 会 員)

正会員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第八条 (特別会員)

特別会員とは次のものを云う。

第九条（在学会員）

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。
二、その他、総会の決議によって推薦した者。

在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十条（会費）

正会員は会費として年額四、〇〇〇円を当会へ納入する。
但し卒業後四十四年を経過した者は会費を免除する。

第三章 役員

第十一条（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長 一名

副会長 二名

監事 若干名

幹事長 一名

本部幹事 若干名

支部幹事 若干名

第十二条（改選）

役員は改選は総会の決議によって行なり。

第十三条（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五条（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条（監事）

監事は本会の会務及び会計を監査する。

第十七条（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十八条（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第四章 総 会

第十九条（招 集）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集をする。

第二十条（時 期）

総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十一条（議 決）

総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。

但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第二十二条（経 理）

本会の経理は、会費、寄附金及びその他の収入によって賄う。

第二十三条（決 算）

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第二十四条（期 間）

本会の会計年度は、毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第二十五条

本会則は、昭和五十三年五月十三日より発効する。

凌泳会役員名簿

会 長	小山 賢之助(学1)	
副 会 長	山田 常雄(学1)・山口宗樹(学10)	
監 事	空 席	
幹 事 長	石井 義章(学22)	
幹 事	萩原 武(新10)	玉置 明(新18)
會計担当幹事	長谷川 健(新22)	
凌泳編集幹事	堤 莊 祐(新12)	
支 部 幹 事		
〔関東〕	小山 賢之助(学1)	山口 宗樹(学10)
	浜川 広海(学22)	永野 一彦(新8)
	鈴木 啓介(学10)	
〔中部〕	大内 義仁(学8)	
〔中国〕	中村 市治(学9)	
〔四国〕	印藤 勝美(学13)	
〔九州〕		
〔関西〕		
京都	柳本 正雄(新10)	
大阪	玉置 明(新18)	井上 与志男(新18)
姫路	山口 仁郎(新5)	

凌泳会々員名簿

物故会員

藤井 正太郎
 多田 徳雄
 小笠原 房穂
 中村 精一
 加納 茂
 岡本 幸一
 榑原 零一
 山本 零一
 山下 虎藏
 鈴木 不羈雄
 繁益 繁治郎
 古林 喜楽
 三輪 嘉一郎
 高田 寿三
 大谷 親之輔
 旧姓

特 特 高
 21 15 15 15 16 17 17 17 17 17 18 19 19 20 20 21
 昭 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
 2 15 15 14 14 14 13 12 12 12 11 10 10 10 10 10

年卒
 次業

大島 勝利
 中村 毅
 浅野 猛雄
 田川 亮一
 阪本 豊一
 東本 武三
 川西 武雄
 太田 清
 土肥 駒次郎
 鍵本 芳次
 小西 熊雄
 片山 四郎
 栄山 四郎
 村上 秀二
 和泉 真弘

高 21 昭 2
 8 7 6 5 3 2 26 26 26 23 22 22 22 21 21
 14 13 12 11 9 8 7 7 7 4 3 3 3 2 2

年卒
 次業

松本 勇
 新原 克夫
 部坂 正伍
 恩地 正幸
 井上 慶三
 柏木 八
 福垣 八
 山口 八
 池田 治郎
 前田 礼
 伊藤 一
 衣川 昭郎
 中島 功
 今井 彰

学 8 昭 14
 3 1 1 16 14 13 12 11 11 11 10 10 9 8
 30 28 24 21 19 18 17 16 16 16 16 16 15 14

年卒
 次業

1. 高神彩なす翹をあげて
 靈杖遙に東を指せば
 雲しき果実は雲間を漏りて
 秋津島根に落つとぞ見えし
 所はここぞ菊水かおる
 淡河原の近きほとりに
 かく伝わりし天のさとしも
 人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
 靈果いかで地に朽つべき
 豊栄のぼる朝日のかげに
 八州の外に潮風吹きて
 いつしか催す気運に乗り
 わが学校ぞ世に生まれたる
 甞る商界夢さますべき
 使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
 連り亘る山ぶところに
 数々の若鷹はぐくまれ居て
 静かにうかぶ雲の行きかひ
 朝妙なる琴のひびきは
 敏馬の浜に松を吹く風
 夕やさしき舞の姿は
 茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
 寄せてはかえず清き渚や
 熱誠もゆる夏の盛りを
 いたわる風の葎合の里
 須磨や明石をかけて照るらん
 月には物のあわれをぞ知る
 冬は凜たる後に嵐
 奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
 偉人傑士を起たしむとかや
 天の使命を胸に収めて
 清き自然に抱かれながら
 筋骨鍛え智徳を研く
 切磋琢磨の三年の春秋
 養い得たるうつ物の意気
 抱負を語れや干余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年
 かがやく光は劍の蒼
 心はおなじ大和男子の
 我等は牙を執って起ちなん
 日出ずる旗を高くかざして
 日入らぬ国と手を携えて
 目ざす平和の戦の場に
 匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時そとねぐら離れて
 野に立出ずる蒼鷹幾羽
 爪も研ぎぬ力も足りぬ
 尋にも余るつばさを張れば
 枝の百鳥皆おそれ伏す
 扶揺万里の風を起して
 おのが向々東に西に
 雲に突き入る勢見るや

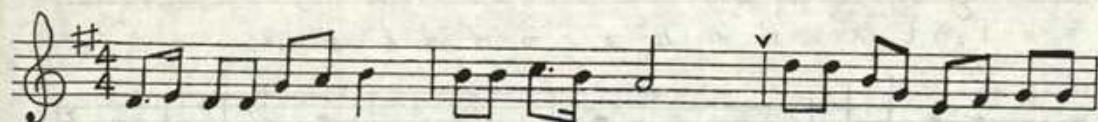
商 神

しゅうしん あやなす つばさをあげて
れいじゅう はるかに ひがしをさせば
くしき このみは くもまをもりて
あきつー しまねに おつとぞ みえしと
こーろは ここぞ きくすいか おるみ
つなとが わらのち かきほとりに
かくつ たわりし あめのさとしも
ひとは さとらで いくとせかへぬ

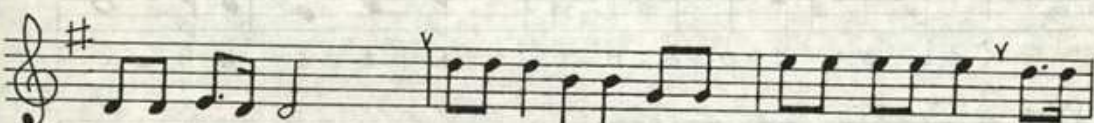
水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

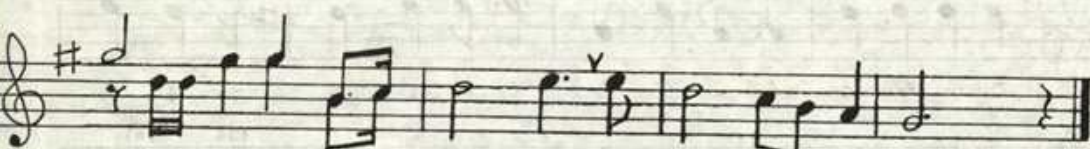
作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ う に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
 2. フ リ ー ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク リ レ ー に
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ
 ボ ロ ま で も ぬ り え い け ん じ の い き た か し い ざ
 プ ー ル べ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る



き(しぶき) を あ げ る け ん だ ん じ
 や(いざや) - き そ わ ん り で を ぶ し
 な(くるな) つ ま っ て い き り た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し
 茅渚の浦曲を見下して
 しぶきをあげる健男子

二、フリー ブレスト バタフライ

バック リレーにボロまでも
 凌泳健児の意気高し
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に
 月見の宴で泳ぎ止め
 来る夏待っていきり立つ

宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

ま や ろ っ こ う に い だ か れ て

み どり の そ の に は な ふ り か かる

こ こ お か の ー べ の わ こ う ど ー が

も ゆ る お も い を む ね に ひ め

ま な ぶ や ゆ う ひ の と き を き し

三

燃ゆる紅葉たそがれて
宵闇せまる山路を踏めば
真理に挑む若鷹が
ネオンの海を見おろして
いよよ決意をかたむ哉

四

身に悩みわたる峯おろし
冬来りなげ春近し
巢立つ晴れの日時せまる
翼ひろげて悠然と
宇宙を股に羽ばたかん

一

摩耶六甲に抱かれて
緑の園に花ふりかかる
ここ丘の上の若人が
燃ゆる思いを胸に秘め
学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて
茅渚の浦ゆ紀伊の山
右手に四国よ淡路島
左手にうかがふ金剛山
大らかにぞ抱負わく

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄

作曲 黒田 浩一

編曲 土橋 康宏

たて や たて われらがえらばれ
しせんし ぼくのたかき ほまれにかけて た
だ めざす しゅうりのかむり
ふる えいざ ふるえ ちからのかぎり かがやかんえい
こうはつねに われらに
こうべこうべこうべ われらがこうべだいがくゆけ

一 起てや起て
われらが選ばれし戦士
母校の高き誓にかけて
ただ目指す勝利の栄冠
振るえいざ振るえ力の限り
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸 神戸
われらが 神戸大学

二 征けや征け
われらが選ばれし戦士
若人の大き誇を秘めて
胸深く制覇の誓
振るえいざ振るえ雄々しく強く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸 神戸
われらが 神戸大学

三 開けや開け
われらが選ばれし戦士
青春の若き血潮たぎらせ
相和するからどきの歌
振るえいざ振るえ意気いや高く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸 神戸 神戸
われらが 神戸大学

編集後記

神大水泳部の勢いが今年限りで衰えてしま
うかもしれないとそんな不安を我々現役部員
は少なからず感じていたはず。ではその
不安を取り除くにはどうすればいいのか、そ
れはただもう夢中で泳ぐことしかないのだし
よう。それさえ乗り越えればそこには新しい
力がきつと生れているはず。とにかく今
シーズンは我々にとつて正念場なのです。

本号に御寄稿下さったOBの方々に厚く御
礼を申し上げます。

次号にもさらに多くのOBの方の御寄稿をお
待ちしております。

尚、本号においてお気づきの点がありまし
たらお知らせ下さい。

森 鼻 隆 夫

昭和五十四年五月十日 発行

発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌 泳 会

神戸大学水泳部

原稿等郵送宛先

〒六五七 神戸市灘区六甲台町二

神戸大学水泳部

会費等振込口座

郵便振替口座番号

神戸一三三一

加入者名

神戸大学凌泳会

編集 神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者 森 鼻 隆 夫

印刷所 神戸市東灘区住吉町垣ノ内三

小野印刷株式会社

電話〇七〇八五一〇六〇一

